

JT-Q954.1

デジタル加入者線信号方式No.1 (DSS1)
を利用する複数加入者付加サービスのた
めのステージ3記述 会議通話 (CONF)

Stage 3 Description For Multiparty
Supplementary Services Using Digital
Subscriber Signalling System No.1 (DSS1)
- Conference Calling (CONF)

第1版

2000年4月20日制定

社団法人

情報通信技術委員会

THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE

本書は、（社）情報通信技術委員会が著作権を保有しています。

内容の一部又は全部を（社）情報通信技術委員会の許諾を得ることなく複製、転載、改変、転用及びネットワーク上での送信、配布を行うことを禁止します。

<参考>

1. 国際勧告等との関連

(1) 本標準は、1993年3月の世界電気通信標準化会議(WTSC-93)において承認されたITU-T勧告Q.954.1に準拠したものである。

2. 上記国際勧告等に対する追加項目等

2.1 オプション選択項目

なし。

2.2 オプション項目

ITU-T勧告Q.954.1における複数の選択肢がある項目に対して、TTC標準としてもオプション項目とするものについて表1に示す。

3. 改版の履歴

版数	発行日	改版内容
第1版	2000年 4月20日	制定

4. 工業所有権

本標準に関わる「工業所有権等の実施の権利に係る確認書」の提出状況は、TTCホームページでご覧になります。

5. 注意事項

- (1) 端末と網とが本標準に準拠して接続される場合においては、2.2節のオプション項目に関して、各々が採用した選択肢を確認する必要がある。
- (2) ITU-T勧告I.130において定義されているISDNサービス方法論に従い、各付加サービスの定義に関しては標準JT-I250シリーズ(ステージ1)に記述され、各付加サービスの網と端末の機能分担などに関してはITU-T勧告Q.80シリーズ(ステージ2)に記述されている。
- (3) 本文中に記述されている他の付加サービスとの相互作用に関して、現時点では標準となっていない付加サービスに対しても記述しているが、その記述はその付加サービスが標準となった時点で追加・変更される可能性があるため注意が必要である。

6. その他

(1) 参照する主な勧告、標準等

(i) TTC標準

JT-Q931、JT-Q932

(ii) ITU-T勧告

Q.71、Q.84、X.203、X.219

表1 オプション項目一覧

項番	項目 (本文該当箇所)	選択肢	選択肢 の関係	提供/選択 するサイド	選択条件 および備考
1	会議参加者の最大数指定 (5.2.1.1/5.2.2.1)	指定しない 指定する	E O	ユーザ	

選択肢の関係

E：必須

O：オプション

A：1つ又は複数を選択

S：付加サービスに依存して1つ又は複数を選択

目 次

1 . 定義	1
2 . 説明	1
2.1 概要	1
2.2 特殊用語	1
2.2.1 ユーザ	1
2.2.2 網	1
2.2.3 サービス対象ユーザ	1
2.2.4 リモートユーザ	1
2.2.5 隔離	1
2.2.6 復帰	1
2.2.7 分離	1
2.2.8 離脱	1
2.2.9 フローティング	1
2.2.10 会議識別子	1
2.2.11 パーティ識別子	2
2.2.12 インボークコンポーネント	2
2.2.13 リターンリザルトコンポーネント	2
2.2.14 リターンエラーコンポーネント	2
2.3 テレコミュニケーション・サービスへの適用可能性上の必要条件	2
2.4 状態定義	2
3 . 運用上の必要条件	2
3.1 提供と取り消し	2
3.2 発側網での必要条件	2
3.3 着側網での必要条件	2
4 . コーディング上の要求条件	2
5 . 信号上の要求条件	7
5.1 サービスの開始 / 停止 / 登録	7
5.2 インボケーションと動作	7
5.2.1 空き状態からの会議通話開始	7
5.2.2 通信中状態からの会議通話開始	8
5.2.3 加入者の追加	9
5.2.4 加入者の隔離	10
5.2.5 加入者の復帰	11
5.2.6 加入者の分離	12
5.2.7 加入者の切断	13
5.2.8 会議の終了	14
5.2.9 サービス対象ユーザの切断	14

5.2.10 サービス対象ユーザによる呼の切断復旧	15
6 . 他の付加サービスとの相互作用	16
6.1 コールウェイティング (C W)	16
6.2 コールトランスファ (C T)	16
6.3 接続先番号通知 (C O L P)	16
6.4 接続先番号通知制限 (C O L R)	16
6.5 発信者番号通知 (C L I P)	17
6.6 発信者番号通知制限 (C L I R)	17
6.7 閉域接続 (C U G)	17
6.8 会議通話 (C O N F)	17
6.8.1 会議通話アドオン	17
6.8.2 ミート・ミー会議通話	17
6.9 ダイレクトダイヤルイン (D D I)	17
6.10 着信転送サービス	17
6.10.1 ビジー時着信転送 (C F B)	17
6.10.2 無応答時着信転送 (C F N R)	17
6.10.3 無条件着信転送 (C F U)	17
6.10.4 呼毎着信転送 (C D)	17
6.11 ユーザ・ユーザ情報転送サービス (U U S)	17
6.11.1 サービス 1	17
6.11.2 サービス 2	18
6.11.3 サービス 3	18
6.12 代表 (L H)	19
6.13 三者通話 (3 P T Y)	19
6.14 複数加入者番号 (M S N)	19
6.15 保留 (H O L D)	19
6.16 課金情報通知 (A O C)	19
6.17 サブアドレス (S U B)	19
6.18 端末移動 (T P)	20
6.19 話中時再呼び出し (C C B S)	20
6.20 悪意呼通知 (M C I D)	20
6.21 着信課金 (R E V)	20
6.22 多段階優先割込み (M L P P)	20
7 . 他網との相互作用	20
7.1 非 I S D N との相互作用	20
7.2 私設 I S D N とのインタワーキング手順	20
8 . 信号フロー図	20
9 . パラメータ値	30
10 . 動的記述 (S D L)	30

1 . 定義

本付加サービスは、ユーザに多接続呼、つまり2者を越える加入者間の同時通信を行う能力を提供する。

2 . 説明

2.1 概要

会議通話が起動されると、会議の資源（例：“ブリッジ”）がサービス対象ユーザに割り当てられ、サービス要求によって指示される全ての呼が会議に追加される。一旦、会議が開始されると、加入者が追加、離脱、隔離（会議通話の禁止）、復帰、分離（会議からは離脱するが、会議主導者への接続状態は維持）をされうる。主導者は、会議接続を保留、保留解除、終了、あるいは会議から自身を切断することができる。

2.2 特殊用語

2.2.1 ユーザ

ユーザ・網インタフェースにおけるユーザ側のD S S 1プロトコルエンティティ。

2.2.2 網

ユーザ・網インタフェースにおける網側のD S S 1プロトコルエンティティ。

2.2.3 サービス対象ユーザ

会議通話（CONF）付加サービスを要求し、制御するのに用いられる、ユーザ・網インタフェースにおけるユーザ側のD S S 1プロトコルエンティティ。

2.2.4 リモートユーザ

会議通話（CONF）付加サービスのインスタンスに含まれるが、その制御は行わない、ユーザ・網インタフェースにおけるユーザ側のD S S 1プロトコルエンティティ。

2.2.5 隔離

会議参加者との通信を規制する動作。

2.2.6 復帰

会議参加者との通信を再確立する動作。

2.2.7 分離

サービス対象ユーザとリモートユーザ間の通常呼を作成する動作。

2.2.8 離脱

リモートユーザへの接続を切断する動作。

2.2.9 フローティング

会議通話（CONF）付加サービスのインスタンスがサービス対象ユーザなしで存在する状況。

2.2.10 会議識別子

会議通話（CONF）付加サービスのインスタンスを識別する識別子。

2.2.11 パーティ識別子

会議通話（CONF）付加サービスのインスタンス内の参加者を識別する識別子。

2.2.12 インボークコンポーネント

標準JT-Q932[1]8.2.3.1.1節参照。

TTT注 - コンポーネントの参照節に関して、ITU-T勧告に明らかな誤りがあるため訂正した。

2.2.13 リターンリザルトコンポーネント

標準JT-Q932[1]8.2.3.1.1節参照。

TTT注 - コンポーネントの参照節に関して、ITU-T勧告に明らかな誤りがあるため訂正した。

2.2.14 リターンエラーコンポーネント

標準JT-Q932[1]8.2.3.1.1節参照。

TTT注 - コンポーネントの参照節に関して、ITU-T勧告に明らかな誤りがあるため訂正した。

2.3 テレコミュニケーション・サービスへの適用可能性上の必要条件

本サービスは、テレフォニー・テレサービスにのみ適用可能である。

7kHzオーディオ伝達能力への適用は今後、更に研究が必要である。

2.4 状態定義

標準JT-Q931[2]の基本呼制御に関連する呼状態が適用される。他の状態は、会議通話（CONF）付加サービスについての記述には使用されない。

3. 運用上の必要条件

3.1 提供と取り消し

適用なし。

3.2 発側網での必要条件

適用なし。

3.3 着側網での必要条件

適用なし。

4. コーディング上の要求条件

表1は、ITU-T勧告X.208[4]で規定される抽象構文記法1（ASN.1）および、ITU-T勧告X.219[5]図4で定義されるOPERATIONおよびERRORマクロを使用した、会議通話（CONF）付加サービスのために必要となるオペレーションおよびエラーの定義を示す。

全てのコンポーネント（インボーク、リターンリザルト、リターンエラー、リジェクト）は、ファシリティ

情報要素内に含まれるものとする。もし、更に制限するような仕様が与えられなければ、このファシリティ情報要素は任意の適切なメッセージに含まれうる。

表 2 は、通知識別子情報要素（「通知」（NOTIFY）メッセージの中で伝えられる）のオクテット 3 の中で使用される会議通話（CONF）付加サービス用の追加コードポイントを示す。

表 3 は、ITU-T 勧告 X.208 [4] で規定される抽象構文記法 1（ASN.1）および、標準 JT-Q932 [1] に指定される NOTIFICATION マクロを使用した、会議通話（CONF）付加サービスのために必要となる拡張通知の定義を示す。

表 1 / JT - Q 9 5 4 . 1
(ITU-T Q.954.1)
オペレーションとエラーの定義

```
Conference-Add-On-Operations{ ccitt recommendation q 954 conference-add-on-operations-and-errors(1)}
DEFINITIONS ::=
BEGIN

EXPORTS
    BeginCONF, AddCONF, SplitCONF, DropCONF, IsolateCONF,
    ReattachCONF, PartyDISC, FloatCONF, EndCONF, IllConferenceld,
    IllPartyld, NumberOfPartiesExceeded, NotActive, NotAllowed, Partyld,
    Conferenceld, ConfSize;

IMPORTS
    OPERATION,
    ERROR
    FROM Remote-Operation-Notation
        { joint-iso-ccitt remote-operations (4) notation (0) }

    userNotSubscribed, notAvailable,
    resourceUnavailable,
    invalidCallState,
    supplementaryServiceInteractionNotAllowed
    FROM General-Error-List
        { ccitt recommendation q 950 general-error-list (1) };

BeginCONF ::=
    OPERATION
    ARGUMENT      ConfSize -- オプション
    RESULT        SEQUENCE{
                    Conferenceld,
                    Partyld OPTIONAL }
    ERRORS        { userNotSubscribed, notAvailable,
                    resourceUnavailable, invalidCallState,
                    numberOfPartiesExceeded }

AddCONF ::=
    OPERATION
    ARGUMENT      Conferenceld
    RESULT        Partyld
    ERRORS        { IllConferenceld,
                    NumberOfPartiesExceeded,
                    NotAllowed,
                    supplementaryServiceInteractionNotAllowed,
                    invalidCallState }

SplitCONF ::=
    OPERATION
    ARGUMENT      SEQUENCE{
                    Conferenceld,
```

		PartyId }
	RESULT ERRORS	{ IIIConferenceId, IIIPartyId }
DropCONF ::=	OPERATION ARGUMENT RESULT ERRORS	PartyId { IIIPartyId, NotActive }
IsolateCONF ::=	OPERATION ARGUMENT RESULT ERRORS	PartyId { IIIPartyId, NotActive }
ReattachCONF ::=	OPERATION ARGUMENT RESULT ERRORS	PartyId { IIIPartyId, NotActive }
PartyDISC ::=	OPERATION ARGUMENT RESULT ERRORS	PartyId { IIIPartyId, NotActive }
FloatCONF ::=	OPERATION RESULT ERRORS	 { NotActive, NotAllowed }
EndCONF ::=	OPERATION RESULT ERRORS	 { NotActive }
IdentifyConferee ::=	OPERATION ARGUMENT	PartyId
IIIConferenceId ::=	ERROR	
IIIPartyId ::=	ERROR	
NumberOfPartiesExceeded ::=	ERROR	
NotActive ::=	ERROR	
NotAllowed ::=	ERROR	
PartyId ::=	::= INTEGER(0..127)	
ConferenceId	::= INTEGER(0..127)	
ConfSize	::= INTEGER(0..127)	
beginCONF BeginCONF ::=	40	
addCONF AddCONF ::=	41	
splitCONF SplitCONF ::=	42	
dropCONF DropCONF ::=	43	
isolateCONF IsolateCONF ::=	44	
reattachCONF ReattachCONF ::=	45	
partyDISC PartyDISC ::=	46	

floatCONF FloatCONF ::= 47

endCONF EndCONF ::= 48

identifyConferee IdentifyConferee ::= 49

illConferenceId IllConferenceId ::= 28

illPartyId IllPartyId ::= 29

numberOfPartiesExceeded NumberOfPartiesExceeded ::= 30

notActive NotActive ::= 31

notAllowed NotAllowed ::= 32

END – Conference-Add-On-Operations定義の終了

表 2 / J T - Q 9 5 4 . 1

(ITU-T Q.954.1)

通知識別子情報要素中の追加コードポイント

ビット								内容
8	7	6	5	4	3	2	1	
1	1	0	0	0	0	1	0	会議通話確立、つまりユーザは複数加入者呼へ参加する
1	1	0	0	0	0	1	1	会議通話終了、つまりユーザは通常の 2 加入者呼へ参加する
1	1	0	0	0	1	0	0	新規メンバ追加
1	1	0	0	0	1	0	1	隔離
1	1	0	0	0	1	1	0	復帰
1	1	0	0	0	1	1	1	特定メンバ隔離
1	1	0	0	1	0	0	0	特定メンバ復帰
1	1	0	0	1	0	0	1	特定メンバ分離
1	1	0	0	1	0	1	0	特定メンバ離脱
1	1	0	0	1	0	1	1	会議フローティング

Conference-Add-on-Notifications { ccitt recommendation q 954 conference-add-on (1) extended-notifications (2) }

```

DEFINITIONS ::=
BEGIN

EXPORTS PartyIdNotification;

IMPORTS
NOTIFICATION
FROM
{ ccitt recommendation q 932 notification-data-structure (5) }
PartyId
FROM Conference-Add-On-Operations
{ ccitt recommendation q 954 conference-add-on (1) operations-and-
types (1) };

PartyIdNotification ::=
NOTIFICATION
ARGUMENT PartyId

```

partyIdNotification PartyIdNotification ::= 1

END – Conference-Add-on-Notifications定義の終了

5 . 信号上の要求条件

次節以降の本文中で、X X X Xインボークコンポーネントと記述している部分は、オペレーションX X X Xの値に設定されたオペレーション値を伴うインボークコンポーネントを意味する。

5.1 サービスの開始 / 停止 / 登録

適用されない。すなわち、この付加サービスの開始、停止、登録の信号手順は必要ない。

5.2 インボケーションと動作

5.2.1 空き状態からの会議通話開始

5.2.1.1 通常動作

会議通話（すなわち初期の会議参加者なしの状態）の要求のために、サービス対象ユーザはファシリティ情報要素と伝達能力情報要素を含む「呼設定」（SETUP）メッセージを網に送出する。ファシリティ情報要素は、beginCONF インボークコンポーネントを含む。このコンポーネントは、会議参加者の最大数を示す ConfSize パラメータを含むことができる。このパラメータが提供されない場合、網は網によって決められた会議通話の規模を設定する。伝達能力情報要素は、会議通話アドオンサービスの適用に関して適切な伝達能力を示す。着番号情報要素と着サブアドレス情報要素は、ユーザによって省略される。さらに、正常基本呼手順は、標準 J T - Q 9 3 1 [2] の 5 . 1 節に従って適用される。

網が、「応答」（CONNECT）メッセージを返送した時、ファシリティ情報要素に beginCONF リターンリザルトコンポーネントが含まれる。このコンポーネントは ConferenceId パラメータを含む。ConferenceId はいくつかの操作において明示的に会議通話を識別するために使用される。

ユーザが正しくコード化された beginCONF リターンリザルトコンポーネントを受信したとき、ユーザは提供された情報を受け入れ、その情報に含まれている ConferenceId を蓄え、網に応答を行わない。

会議通話を要求するための手順は、他の呼から完全に独立している。

5.2.1.2 例外手順

ユーザが会議通話 (CONF) 付加サービスに契約していない場合、網は標準 JT - Q 9 3 1 [2] の 5 . 3 節に定義されているとおりに基本呼切断復旧手順を開始する。網からサービス対象ユーザへ送出されるメッセージの 1 つは、“notSubscribed” エラーを示す beginCONF リターンエラーコンポーネントのあるファシリティ情報要素を含む。さらにこのメッセージは、理由表示 # 3 1 “その他の正常クラス” と、“ローカルユーザ収容公衆網” の生成源を示す理由表示情報要素を含む。

ユーザが「呼設定」(SETUP) メッセージで要求した基本サービスに契約されていない場合、網は標準 JT - Q 9 3 1 [2] の 5 . 3 節に定義されているとおりに基本呼切断復旧手順を開始する。

ユーザが不適切な伝達能力を示した場合、網は標準 JT - Q 9 3 1 [2] の 5 . 3 節に定義されているとおりに基本呼切断復旧手順を開始する。網からサービス提供ユーザへ送出されるメッセージの 1 つは、“notAvailable” エラーを示す beginCONF リターンエラーコンポーネントのあるファシリティ情報要素を含む。さらにこのメッセージは、理由表示 # 3 1 “その他の正常クラス” と、“ローカルユーザ収容公衆網” の生成源を示す理由表示情報要素を含む。

ユーザから要求された会議規模が網が提供する規模を越えるために、網が操作を受け入れることができない場合、網は標準 JT - Q 9 3 1 [2] の 5 . 3 節に定義されているとおりに基本呼切断復旧手順を開始する。網からサービス対象ユーザへ送出されるメッセージの 1 つは、“NumberOfPartiesExceeded” エラーを示す beginCONF リターンエラーコンポーネントのあるファシリティ情報要素を含む。さらにこのメッセージは、理由表示 # 3 1 “その他の正常クラス” と、“ローカルユーザ収容公衆網” の生成源を示す理由表示情報要素を含む。

網が通信中状態 (N10) と空き状態 (N0) 以外の時に beginCONF インボークコンポーネントを受信した場合、網はサービス提供ユーザに “invalidCallState” エラーを示す beginCONF リターンエラーコンポーネントを「ファシリティ」(FACILITY) メッセージで送出する。

5.2.2 通信中状態からの会議通話開始

5.2.2.1 通常動作

会議通話の要求のために、サービス対象ユーザは既存呼の呼番号とファシリティ情報要素を含む「ファシリティ」(FACILITY) メッセージを網に送出する。このファシリティ情報要素は、beginCONF インボークコンポーネントを含む。このコンポーネントは、会議参加者の最大数を示す ConfSize パラメータを含むことができる。このパラメータが提供されない場合、網は網によって決められた会議通話の規模を設定する。

網は、サービス対象ユーザに「ファシリティ」(FACILITY) メッセージで beginCONF リターンリザルトコンポーネントを送出する。このコンポーネントは、ConferenceId パラメータと PartyId パラメータを含む。ConferenceId は、いくつかの操作において明示的に会議通話を識別するために使用される。PartyId は後の操作にて最初の呼のリモートユーザを識別するために使用される。

ユーザが正しくコード化された beginCONF リターンリザルトコンポーネントを受信したとき、ユーザは提供された情報を受け入れ、その情報に含まれている ConferenceId と PartyId を蓄え、網に応答を行わない。

PartyId の生成手順は本標準の規定外である。PartyId に関する要求条件は、加入者を識別するために使用された PartyId はこの PartyId で識別された加入者がその会議通話から離脱するまで再び使用されないことである。すなわち PartyId は、1 つの会議通話の範囲内においては重複しない。

網は、この加入者がその会議通話に追加されたことを示す（“ 会議通話確立 ”）通知識別子情報要素を伴う「通知」（NOTIFY）メッセージをリモートユーザへ送出する。

5.2.2.2 例外手順

ユーザが会議通話（CONF）付加サービスに契約していない場合、網は、サービス対象ユーザに、「ファシリティ」（FACILITY）メッセージで beginCONF リターンエラーコンポーネントを送出する。パラメータは、“ notSubscribed ”を示す。

ユーザから要求された会議規模が網でサポートされている規模を越えるために、網がその動作を受けられない場合、網は、「ファシリティ」（FACILITY）メッセージで“ NumberOfPartiesExceeded ”エラーを示す beginCONF リターンエラーコンポーネントをサービス対象ユーザに送出する。

ユーザが不適切な伝達能力を示した場合、網は、「ファシリティ」（FACILITY）メッセージで“ notAvailable ”を示す beginCONF リターンエラーコンポーネントをサービス対象ユーザへ送出する。

5.2.3 加入者の追加

5.2.3.1 通常動作

新しい加入者を追加するために、会議ブリッジへの接続は（通信中、空き）状態あるいは（通信中、保留）状態であり、そして追加される加入者への接続は（通信中、空き）状態あるいは（通信中、保留）状態のいずれかであるべきである。

サービス対象ユーザは、追加する呼の呼番号を示し、AddCONF インボークコンポーネントを含む「ファシリティ」（FACILITY）メッセージを網に送信する。このコンポーネントは会議通話を示す ConferenceId パラメータを含む。

網は、AddCONF リターンリザルトコンポーネントを伴ったファシリティ情報要素を含んだ「切断」（DISCONNECT）メッセージをサービス対象ユーザに送信し、標準 JT - Q 9 3 1 [2] の 5 . 3 節に従って切断復旧を続ける。このコンポーネントは PartyId を含む。この PartyId は追加された加入者を識別するために次の手順で使われる。最初の切断復旧メッセージは理由表示 # 1 6 “ 正常切断 ” と “ ローカルユーザ収容公衆網 ” の生成源を示す理由表示情報要素を含む。

T T C 注 - 切断復旧手順の参照節に関して、I T U - T 勧告に明らかな誤りがあるため訂正した。

ユーザが正しくコード化された AddCONF リターンリザルトコンポーネントを受信したとき、ユーザは提供された情報を受け入れ、その情報に含まれる PartyId を蓄える。

PartyId の生成手順は本標準の規定外である。PartyId に関する要求条件は、加入者を識別するために使用された PartyId はこの PartyId で識別された加入者がその会議通話から離脱するまで再び使用されないことである。すなわち PartyId は、1 つの会議通話の範囲内においては重複しない。

網は、追加されたリモートユーザに、加入者が会議通話に追加されたことを示す（“ 会議通話確立 ”）通知識別子情報要素を伴う「通知」（NOTIFY）メッセージを送信する。

網は、他のすべてのリモートユーザに、新しい加入者が会議通話に追加されたことを示す（“ 新規メンバ追加 ”）通知識別子情報要素を伴う「通知」（NOTIFY）メッセージを送信する。

5.2.3.2 例外手順

使用された ConferenceId が網に知られている会議通話と関係ない場合、網は AddCONF リターンエラーコンポーネントを「ファシリティ」（FACILITY）メッセージでサービス対象ユーザに送信する。本コンポーネントに含まれるパラメータは “ illConferenceId ” を示す。

注 - このエラーはルーチング制約の結果としても起こる。

加入者が最大数に達したことにより、網が加入者を受け入れない場合、網は AddCONF リターンエラーコンポーネントを「ファシリティ」（FACILITY）メッセージでサービス対象ユーザに送信する。本コンポーネントに含まれるパラメータは “ NumberOfPartiesExceeded ” を示す。

呼の追加が閉域接続グループ則の違反を起こすことにより、網が本オペレーションを受け入れない場合、網は AddCONF リターンエラーコンポーネントを「ファシリティ」（FACILITY）メッセージでサービス対象ユーザに送信する。本コンポーネントに含まれるパラメータは “ supplementaryServiceInteractionNotAllowed ” を示す。

網が通信中呼状態でない呼番号値に対して AddCONF インボークコンポーネントを受信した場合、網は、 “ invalidCallState ” エラーを示す AddCONF リターンエラーコンポーネントを「ファシリティ」（FACILITY）メッセージでサービス対象ユーザに送信する。

網が他の何らかの理由で本オペレーションを受け入れられない場合、AddCONF リターンエラーコンポーネントを「ファシリティ」（FACILITY）メッセージでサービス対象ユーザに送信する。本コンポーネントに含まれるパラメータは “ notAllowed ” を示す。

5.2.4 加入者の隔離

5.2.4.1 通常動作

加入者を隔離するために、サービス対象ユーザは IsolateCONF インボークコンポーネントを「ファシリティ」（FACILITY）メッセージで網に送信する。コンポーネントは、隔離されるべき加入者を識別する PartyId パラメータを含む。

成功動作を示すために、網は IsolateCONF リターンリザルトコンポーネントを「ファシリティ」（FACILITY）メッセージでサービス対象ユーザに送信する。

ユーザが正しくコード化された IsolateCONF リターンリザルトコンポーネントを受信すると、ユーザは提供された情報を受け入れ、網に応答を行わない。

そのとき、隔離加入者はまだ会議通話に接続しているが、通信はできない。

網は、隔離したリモートユーザに、“隔離”を示す通知識別子情報要素を含んだ「通知」(NOTIFY)メッセージを送信する。

網は、他のすべてのリモートユーザに、加入者が隔離されたことを示す(“特定メンバの隔離”)通知識別子情報要素を伴う「通知」(NOTIFY)メッセージを送信する。

5.2.4.2 例外手順

使用された PartyId が加入者と関係ない場合、網は IsolateCONF リターンエラーコンポーネントを「ファシリティ」(FACILITY)メッセージでサービス対象ユーザに送信する。本コンポーネントに含まれるパラメータは“illPartyId”を示す。

会議通話が正常に確立されなかったことにより、網が本オペレーションを受け入れない場合、網は IsolateCONF リターンエラーコンポーネントを「ファシリティ」(FACILITY)メッセージでサービス対象ユーザに送信する。本コンポーネントに含まれるパラメータは“notActive”を示す。

IsolateCONF インボークコンポーネントで示された加入者がその時すでに隔離している場合、網はこれをエラーとして取り扱わず、IsolateCONF リターンリザルトコンポーネントを「ファシリティ」(FACILITY)メッセージでサービス対象ユーザに返信する。

5.2.5 加入者の復帰

5.2.5.1 通常動作

(隔離した)加入者を復帰させるために、サービス対象ユーザは ReattachCONF インボークコンポーネントを「ファシリティ」(FACILITY)メッセージで網に送信する。コンポーネントは、復帰させるべき加入者を識別する PartyId パラメータを含む。

成功動作を示すために、網は ReattachCONF リターンリザルトコンポーネントを「ファシリティ」(FACILITY)メッセージでサービス対象ユーザに送信する。

ユーザが正しくコード化された ReattachCONF リターンリザルトコンポーネントを受信すると、ユーザは提供された情報を受け入れ、網に応答を行わない。

網は、復帰した会議参加者に、“復帰”を示す通知識別子情報要素を含んだ「通知」(NOTIFY)メッセージを送信する。

網は、他のすべての加入者に、加入者が復帰したことを示す(“特定メンバ復帰”)通知識別子情報要素を伴う「通知」(NOTIFY)メッセージを送信する。

5.2.5.2 例外手順

使用された PartyId が加入者と関係ない場合、網は ReattachCONF リターンエラーコンポーネントを「ファシリティ」(FACILITY)メッセージでサービス対象ユーザに送信する。本コンポーネントに含まれるパラメータは“ illPartyId ”を示す。

会議通話が正常に確立されなかったことにより、網が本オペレーションを受け入れない場合、網は ReattachCONF リターンエラーコンポーネントを「ファシリティ」(FACILITY)メッセージでサービス対象ユーザに送信する。本コンポーネントに含まれるパラメータは“ notActive ”を示す。

ReattachCONF インボークコンポーネントで示された加入者がその時すでに復帰している場合、網はこれをエラーとして取り扱わず、ReattachCONF リターンリザルトコンポーネントを「ファシリティ」(FACILITY)メッセージでサービス対象ユーザに返信する。

5.2.6 加入者の分離

5.2.6.1 通常動作

加入者(加入者は隔離されているかもしれない)を分離するために、サービス対象ユーザはファシリティ情報要素と伝達能力情報要素を含んだ「呼設定」(SETUP)メッセージを網に送信する。ファシリティ情報要素は SplitCONF インボークコンポーネントを含む。本コンポーネントは会議を識別する ConferenceId パラメータと分離する加入者を識別する PartyId パラメータを含む。伝達能力情報要素は会議通話(CONF)付加サービスの適応性に関する適切な伝達能力を示す。着番号および着サブアドレス情報要素はユーザにより省略される。さらに、通常の基本呼手順は標準 JT - Q 9 3 1 [2] の 5 . 1 節に従う。

成功動作を示すために、網は SplitCONF リターンリザルトコンポーネントを「応答」(CONNECT)メッセージ中でサービス対象ユーザに送信し、関係する PartyId を解放する。その PartyId は将来の会議参加者に使われる。

ユーザが正しくコード化された SplitCONF リターンリザルトコンポーネントを受信すると、ユーザは提供された情報を受け入れ、SplitCONF インボークコンポーネント中に含まれる PartyId を解放し、そして網に応答を行わない。

そのとき、サービス対象ユーザは示された加入者に関する異なる呼を持つ。他の全ての会議参加者は今までどおりその会議に関係する。

網は分離したリモートユーザに、“会議通話終了”を示す通知識別子情報要素を伴った「通知」(NOTIFY)メッセージを送信する。

網は他の全てのリモートユーザに、ある加入者が分離されたことを示す(“特定メンバ分離”)通知識別子情報要素を伴う「通知」(NOTIFY)メッセージを送信する。

5.2.6.2 例外手順

使用された ConferenceId が会議に関係ない場合、網は標準 JT - Q 9 3 1 [2] の 5 . 3 節に従い基本呼切断復旧手順を開始する。サービス対象ユーザに送信されるメッセージの一つは SplitCONF リターンエラーコンポーネントを含む。本コンポーネントに含まれるパラメータは“ illConferenceId ”を示す。さらに、本メッセー

ジは理由表示 # 2 9 “ ファシリティ拒否 ” と “ ローカルユーザ収容公衆網 ” の生成源を示す理由表示情報要素を含む。

使用された PartyId が加入者に関係ない場合、網は標準 J T - Q 9 3 1 [2] の 5 . 3 節に従い基本呼切断復旧手順を開始する。サービス対象ユーザに送信されるメッセージの一つは SplitCONF リターンエラーコンポーネントを含む。本コンポーネントに含まれるパラメータは “ illPartyId ” を示す。さらに、本メッセージは理由表示 # 2 9 “ ファシリティ拒否 ” と “ ローカルユーザ収容公衆網 ” の生成源を示す理由表示情報要素を含む。

5.2.7 加入者の切断

5.2.7.1 通常動作

加入者切断を行うために、サービス対象ユーザは DropCONF インボークコンポーネントを「ファシリティ」(FACILITY)メッセージで網に送信する。コンポーネントは切断される加入者を識別する PartyId パラメータを含む。

識別された加入者が会議から外れたことと、標準 J T - Q 9 3 1 [2] の 5 . 3 . 4 節に従う切断復旧手順がリモートユーザで進行中であることを示すために、網は DropCONF リターンリザルトコンポーネントを「ファシリティ」(FACILITY)メッセージにてサービス対象ユーザに送信する。

ユーザが正しくコード化された DropCONF リターンリザルトコンポーネントを受信したとき、ユーザは提供された情報を受け入れ、そして網に応答を行わない。

PartyId はユーザと網により解放され、将来の会議出席者に使われうる。

網は他の全てのリモートユーザに、加入者が切断されたことを示す (“ 特定メンバ離脱 ”) 通知識別子情報要素を伴う「通知」(NOTIFY)メッセージを送信する。

いかなる時においても、会議出席者は標準 J T - Q 9 3 1 [2] の 5 . 3 . 3 節に従う呼切断復旧手順を使用することにより会議より離脱することができる。そのような会議出席者が会議から削除されたことをサービス対象ユーザに示すために、その会議出席者が会議ブリッジから切断された後、網はこの会議出席者に関連する PartyId を示すパラメータを含む PartyDISC インボークコンポーネントを「ファシリティ」(FACILITY)メッセージにてサービス対象ユーザに送信する。

PartyDISC インボークコンポーネント送信時、網は PartyId を解放し、その PartyId は将来の会議出席者の識別に使われうる。PartyDISC インボークコンポーネント受信時、ユーザは PartyId を解放する。

網は他の全てのリモートユーザに、加入者が切断されたことを示す (“ 特定メンバ離脱 ”) 通知識別子情報要素を伴う「通知」(NOTIFY)メッセージを送信する。

5.2.7.2 例外手順

使用された PartyId が加入者と関連が無い場合、網は DropCONF リターンエラーコンポーネントを「ファシリティ」(FACILITY)メッセージでサービス対象ユーザに送信する。本コンポーネントに含まれるパラメータは “ illPartyId ” を示す。

会議通話が正常に確立されなかったことにより網が本操作を受け入れない場合、網は DropCONF リターンエラーコンポーネントをサービス対象ユーザに送信する。本コンポーネントに含まれるパラメータは “notActive” を示す。

5.2.8 会議の終了

5.2.8.1 通常動作

会議を終了させるために、サービス対象ユーザは endCONF インボークコンポーネントを伴ったファシリティ情報要素を含んだ「ファシリティ」(FACILITY)メッセージを網に送信することにより、会議ブリッジへの接続を切断する。

網は、endCONF リターンリザルトコンポーネントを伴ったファシリティ情報要素を含んだ「切断」(DISCONNECT)メッセージをサービス対象ユーザに送信し、標準 J T - Q 9 3 1 [2] の 5 . 3 . 4 節に従い切断復旧を継続する。サービス対象ユーザに送信する最初の切断復旧メッセージは、理由表示 # 1 6 “正常切断” と “ローカルユーザ収容公衆網” の生成源を示す理由表示情報要素を含む。

T T C 注 - 切断復旧手順の参照節に関して、I T U - T 勧告に明らかな誤りがあるため訂正した。

「切断」(DISCONNECT)メッセージの送信時、網は会議を利用不可能にする、つまり本会議に対してユーザによりインボークされた全ての後続のオペレーションは “notActive” を特定する適切なリターンエラーコンポーネントで応答される。呼切断の完了時（例えば、接続切断に関連する「解放完了」(RELEASE COMPLETE)メッセージの送信や受信）、網はそれぞれのリモートユーザに関連する PartyId を解放し、会議に関連する ConferenceId を解放する。ConferenceId は他の会議に再利用されうる。

切断復旧完了時（例えば、接続切断に関連する「解放完了」(RELEASE COMPLETE)メッセージの送信や受信）、サービス対象ユーザはそれぞれのリモートユーザに関連する PartyId を解放し、会議に関連する ConferenceId を解放する。

会議への呼の切断復旧が成功すると、網は標準 J T - Q 9 3 1 [2] の 5 . 3 . 4 節に従って基本呼切断手順を用いてリモートユーザへの呼の切断を開始する。

5.2.8.2 例外手順

会議通話が正常に確立されなかったことにより網が本操作を受け入れない場合、網は endCONF リターンエラーコンポーネントをサービス対象ユーザに送信する。本コンポーネントに含まれるパラメータは “notActive” を示す。

サービス対象ユーザと会議ブリッジの間接続が何らかの理由で切断されたとき、会議は終了する。

5.2.9 サービス対象ユーザの切断

5.2.9.1 通常動作

接続を切断するためサービス対象ユーザは、FloatCONF インボークコンポーネントを「ファシリティ」(FACILITY)メッセージに設定し、網へ送信する。この要求が受理されたこと、すなわちフローティング条件が満たされたことを通知するため、網は、FloatCONF リターンリザルトコンポーネントを「切断」(DISCONNECT)メッセージに設定し送信する。呼の切断復旧は、標準 J T - Q 9 3 1 [2] に従って処理される。サービス対

象ユーザに送信される最初の切断復旧メッセージは、理由表示 # 1 6 “ 正常切断 ” および、 “ ローカルユーザ収容公衆網 ” の生成源を示す理由表示情報要素を含む。

切断復旧完了時（例えば、接続の切断復旧に関連する「解放完了」(RELEASE COMPLETE)メッセージ送受信時）、サービス対象ユーザは各リモートユーザに関連した PartyId を解放し、会議に関連した ConferenceId を解放する。

網は、全リモートユーザへ、会議がフローティング状況にあることを示す（ “ 会議フローティング ” ）通知識別子情報要素を伴う「通知」(NOTIFY)メッセージを送信する。

会議通話（CONF）付加サービスが終了するとき、網は各リモートユーザに関連する PartyId を解放し、会議に関連する ConferenceId を解放する。この ConferenceId は、他の会議用として再利用可能となる。

5.2.9.2 例外手順

フローティング条件が満たされないため、網が本オペレーションを受理できない場合、FloatCONF リターンエラーコンポーネントを設定した「ファシリティ」(FACILITY)メッセージをサービス対象ユーザへ送信する。本コンポーネントに含まれるパラメータは、 “ notAllowed ” を表示する。

会議通話が正常に確立されなかったことにより、網が本オペレーションを受理できない場合、FloatCONF リターンエラーコンポーネントを設定した「ファシリティ」(FACILITY)メッセージをサービス対象ユーザへ送信する。本コンポーネントに含まれるパラメータは、 “ notActive ” を表示する。

5.2.10 サービス対象ユーザによる呼の切断復旧

5.2.10.1 通常動作

網への接続を切断復旧するため、サービス対象ユーザは、標準 JT - Q 9 3 1 [2] 5 . 3 . 3 節に従い処理する。

「切断」(DISCONNECT)メッセージ受信時、網はサービス対象ユーザに対し該当会議を利用不可にする。すなわち、この後に続くサービス対象ユーザによる該当会議に関するすべてのオペレーションは、 “ notActive ” を指定した適切なリターンエラーコンポーネントをもって応答される。

フローティングに関する条件が満たされたとき、網は、サービス対象ユーザへの呼切断復旧を行うが、会議通話（CONF）付加サービスは、リモートユーザが一人になるまで続行する。

網は、全リモートユーザへ、会議がフローティング状況にあることを示す（ “ 会議フローティング ” ）通知識別子情報要素を伴う「通知」(NOTIFY)メッセージを送信する。

切断復旧完了時（例えば、接続の切断復旧に関連する「解放完了」(RELEASE COMPLETE)メッセージ送受信時）、サービス対象ユーザは各リモートユーザに関連した PartyId を解放し、会議に関連した ConferenceId を解放する。

会議通話（CONF）付加サービスが終了するとき、網は各リモートユーザに関連する PartyId を解放し、会議に関連する ConferenceId を解放する。この ConferenceId は、他の会議用として再利用可能となる。

5.2.10.2 例外手順

フローティングに関する条件が満たされない場合、網はサービス対象ユーザへの呼切断復旧を続行し、標準 J T - Q 9 3 1 [2] 5 . 3 . 4 節に従い、基本呼切断復旧手順を用いて、リモートユーザに対する呼の切断復旧を開始する。

切断復旧完了時（例えば、接続の切断復旧に関連する「解放完了」(RELEASE COMPLETE)メッセージを送受信時）、サービス対象ユーザは各リモートユーザに関連した PartyId を解放し、会議に関連した ConferenceId を解放する。

切断復旧完了時（例えば、「解放完了」(RELEASE COMPLETE)メッセージを送受信時）、網は各リモートユーザに関連した PartyId を解放し、会議に関連した ConferenceId を解放する。この ConferenceId は、他の会議用として再利用可能となる。

6 . 他の付加サービスとの相互作用

あるリモートユーザが会議通話中に、リモートユーザ（すなわち、会議通話（CONF）付加サービスのサービス対象ユーザ）への通知が発生する付加サービスまたは他の機能を使用した場合、この通知は下記の追加事項を伴い、サービス対象ユーザへ送信される。

サービス対象ユーザへ送信される通知識別子情報要素は、同一メッセージ内の他の通知識別子よりも優先される。この通知識別子情報要素は表 3 にて定義される PartyNotification 拡張通知であり、標準 J T - Q 9 3 2 [1] 8 . 2 . 8 節にて定義される拡張通知メカニズムを使用し、通知に関連する加入者の PartyId を示すものである。

T T C 注 - 通知識別子の拡張通知メカニズムの参照節に関して、I T U - T 勧告に明らかな誤りがあるため訂正した。

6.1 コールウェイティング（CW）

影響なし。

6.2 コールトランスファ（CT）

影響なし。

注 - ユーザ A が自分の呼を別のユーザへ転送した場合、単に呼が転送されるのみで、会議を制御する能力は転送されない。

6.3 接続先番号通知（COLP）

影響なし。

6.4 接続先番号通知制限（COLR）

影響なし。

6.5 発信者番号通知 (CLIP)

影響なし。

6.6 発信者番号通知制限 (CLIR)

影響なし。

6.7 閉域接続 (CUG)

会議に追加されるすべての呼は、あるひとつの閉域接続グループの範囲内から構成される。サービス対象ユーザが、出アクセスファシリティを使用して、あるいは、閉域接続 (CUG) 付加サービスを使用せずに、異なる閉域接続グループの範囲内への呼を会議へ追加する要求を行った場合、網はこれをエラーとみなし、5.2.3.2 節に規定する手順を適用する。

6.8 会議通話 (CONF)

6.8.1 会議通話アドオン

サービス対象ユーザによって確立された会議通話呼は、会議通話 (CONF) 付加サービスを要求するために使用することはできず (5.2.2 節参照)、また、すでに存在する会議に追加することもできない (5.2.3 節参照)。適切なエラー処理は、5.2.2.2 節と 5.2.3.2 節で規定される。

6.8.2 ミート・ミー会議通話

サービス対象ユーザによって確立されたミート・ミー会議通話呼は、会議通話 (CONF) 付加サービスを要求するために使用することはできず (5.2.2 節参照)、また、すでに存在する会議に追加することもできない (5.2.3 節参照)。適切なエラー処理は、5.2.2.2 節と 5.2.3.2 節で規定される。

6.9 ダイレクトダイヤルイン (DDI)

影響なし。

6.10 着信転送サービス

6.10.1 ビジー時着信転送 (CFB)

影響なし。

6.10.2 無応答時着信転送 (CFNR)

影響なし。

6.10.3 無条件着信転送 (CFU)

影響なし。

6.10.4 呼毎着信転送 (CD)

影響なし。

6.11 ユーザ・ユーザ情報転送サービス (UUS)

6.11.1 サービス 1

会議外のこれから会議参加者になりうるユーザに対して確立される呼であれば、通常のサービス 1 手順に従うことにより、呼設定区間でサービス 1 は利用できる。

呼が会議の一部になったとき、サービス 1 はこれ以上利用できない。本ケースの場合、会議参加者に送られる特定の通知はない。

6.11.2 サービス 2

影響なし。

6.11.3 サービス 3

サービス対象ユーザとそれぞれのリモートユーザは、サービス 3 を使用することにより「ユーザ情報」(USER INFORMATION)メッセージを交換することができる。さらに、サービス対象ユーザは、全てのリモートユーザに対して放送形式で「ユーザ情報」(USER INFORMATION)メッセージを送信することができる。

6.11.3.1 サービス 3 起動

「ユーザ情報」(USER INFORMATION)メッセージの交換以前に、サービス 3 は、会議に追加されることよりのちに会議参加者となる各個別ユーザに対する呼開始時点で起動される。すなわち、起動手順は、会議通話外で実行される。結果として、サービス 3 は会議参加者として既に動作しているユーザには起動できない。

サービス対象ユーザとのちにリモートユーザとなるユーザとの間のサービス 3 の起動は、標準 JT - Q 9 5 7 [8] の 5 . 2 . 3 節に従って実行される。

リモートユーザが会議通話に追加される場合、網は、サービス 3 がこのリモートユーザに対して起動されているかどうか及びサービス 3 がサービス対象ユーザあるいはリモートユーザのどちらによって起動されたかという情報を保持する。

サービス 3 が起動された加入者との個別通信が生成される場合、サービス 3 は個別通信に関連して利用可能である。

会議期間中サービス 3 が利用不可であったリモートユーザとの個別通信が生成される場合、標準 JT - Q 9 5 7 [8] の 5 . 2 . 3 . 2 節に記述された手順を使用することにより、個別通信に関連してサービス 3 が起動できる。

6.11.3.2 「ユーザ情報」(USER INFORMATION)メッセージの転送

「ユーザ情報」(USER INFORMATION)メッセージがサービス対象ユーザと個別のリモートユーザとの間で交換される場合、標準 JT - Q 9 5 7 [8] の 5 . 2 . 3 . 4 節に記述された手順はサービス対象ユーザのユーザ・網インタフェースにおいて以下の例外が適用される。

- サービス対象ユーザは、網に送信する「ユーザ情報」(USER INFORMATION)メッセージ内に identifyConferee インボークコンポーネントを伴うファシリティ情報要素を含む。コンポーネントには、リモートユーザを識別するための PartyId パラメータを含む。網はリモートユーザに送信する「ユーザ情報」(USER INFORMATION)メッセージ内に、このファシリティ情報要素を含まない。
- 網は、リモートユーザから「ユーザ情報」(USER INFORMATION)メッセージを受信した場合、identifyConferee インボークコンポーネントとリモートユーザを識別するための PartyId パラメータ

を伴うファシリティ情報要素を含む「ユーザ情報」(USER INFORMATION)メッセージをサービス対象ユーザに送信する。

サービス対象ユーザが、上述したファシリティ情報要素無しで網に「ユーザ情報」(USER INFORMATION)メッセージを送信した場合、網は、放送形式の送信能力を要求されたとみなし、個々のリモートユーザに「ユーザ情報」(USER INFORMATION)メッセージを送る。

T T C注 - ファシリティ情報要素なしの「ユーザ情報」(USER INFORMATION)メッセージを送信するユーザに関して、I T U - T 勧告に明らかな誤りがあるため訂正した。

サービス対象ユーザからの「ユーザ情報」(USER INFORMATION)メッセージの送信に対しては、会議通話へのサービス対象ユーザのコネクション上で標準「T - Q 9 5 7 [8]」の5 . 2 . 3 . 5 節に規定されたフロー制御手順が適用される。結果として、サービス対象ユーザは、放送形式での送信を含み、共通的に、リモートユーザへ「ユーザ情報」(USER INFORMATION)メッセージの最大制限数分送信できる。

2 以上のリモートユーザが同時にサービス対象ユーザへ「ユーザ情報」(USER INFORMATION)メッセージを送信することができるため、通常の最大制限数はサービス対象ユーザ側の網で超過する可能性がある。この場合、網は受信した「ユーザ情報」(USER INFORMATION)メッセージを何ら制限なしにサービス対象ユーザに送る。

通常のフロー制御手順は、リモートユーザの網で行なわれる。

6.12 代表 (L H)

影響なし。

6.13 三者通話 (3 P T Y)

サービス対象ユーザにより確立された三者通話に含まれる呼は、会議通話 (C O N F) 付加サービスの要求には使用できず (5 . 2 . 2 節参照)、また、現存の会議通話にも追加することができない (5 . 2 . 3 節参照)。適切なエラー処理は5 . 2 . 2 . 2 節及び5 . 2 . 3 . 2 節に規定されている。

6.14 複数加入者番号 (M S N)

影響なし。

6.15 保留 (H O L D)

会議通話呼が保留または保留解除された場合、「通知」(NOTIFY)メッセージはリモートユーザへ通知されない。

6.16 課金情報通知 (A O C)

影響なし。

6.17 サブアドレス (S U B)

影響なし。

6.18 端末移動 (T P)

サービス対象ユーザにより確立された会議通話呼は中断できない。サービス対象ユーザが会議通話呼を中断するように要求した場合、網は、ITU - T 勧告 Q . 9 5 3 [9] の 4 章に規定されているように、サービス対象ユーザに「中断拒否」(SUSPEND REJECT)メッセージを送信して要求を拒否する。

6.19 話中時再呼び出し (C C B S)

影響なし。

6.20 悪意呼通知 (M C I D)

影響なし。

6.21 着信課金 (R E V)

標準 JT - Q 9 5 6 の 9 . 2 . 2 節に記述された手順に以下の記述を追加して適用される。

TTT注 - 着信課金付加サービス手順の参照節に関して、ITU - T 勧告に明らかな誤りがあるため訂正した。

網が、サービス対象ユーザに対して requestREV インボークコンポーネントを「ファシリティ」(FACILITY)メッセージに含めて送信する場合、網は、同じ「ファシリティ」(FACILITY)メッセージに IdentifyConferee インボークコンポーネントを含めて送信する。このコンポーネント内の PartyId パラメータは、着信課金 (R E V) 付加サービスを要求したリモートユーザを識別する。

6.22 多段階優先割込み (M L P P)

ITU - T 勧告 Q . 9 5 5 [1 0] の 3 . 6 . 8 節参照

7 . 他網との相互作用

7.1 非 ISDN との相互作用

PSTN 内の会議参加者は、縮小された通知程度はあるかもしれない。

7.2 私設 ISDN とのインタワーキング手順

私設網に属しているサービス対象ユーザが、公衆網で提供されている会議通話 (C O N F) 付加サービスを要求する場合、5 . 2 節の手順が適用される。

サービス提供者が私設網に属し、会議参加者が公衆網に属する場合、私設網は、適切な時点で公衆網に対して本標準で定義された通知コードポイントを「通知」(NOTIFY)メッセージに含めて送信する。

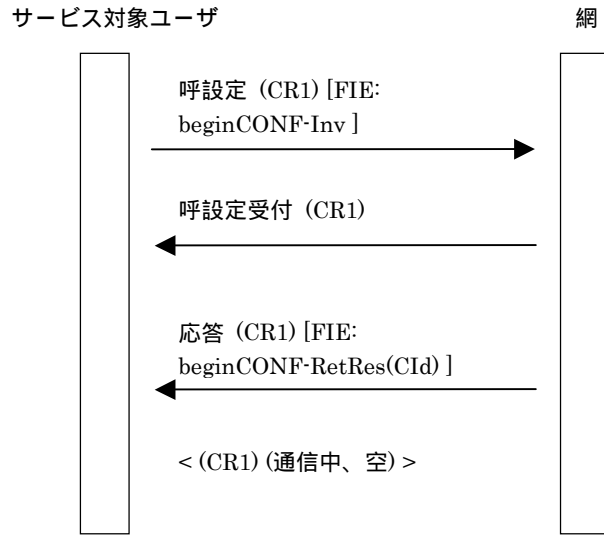
8 . 信号フロー図

会議通話 (C O N F) 付加サービスに対するメッセージフローを以下に示す。

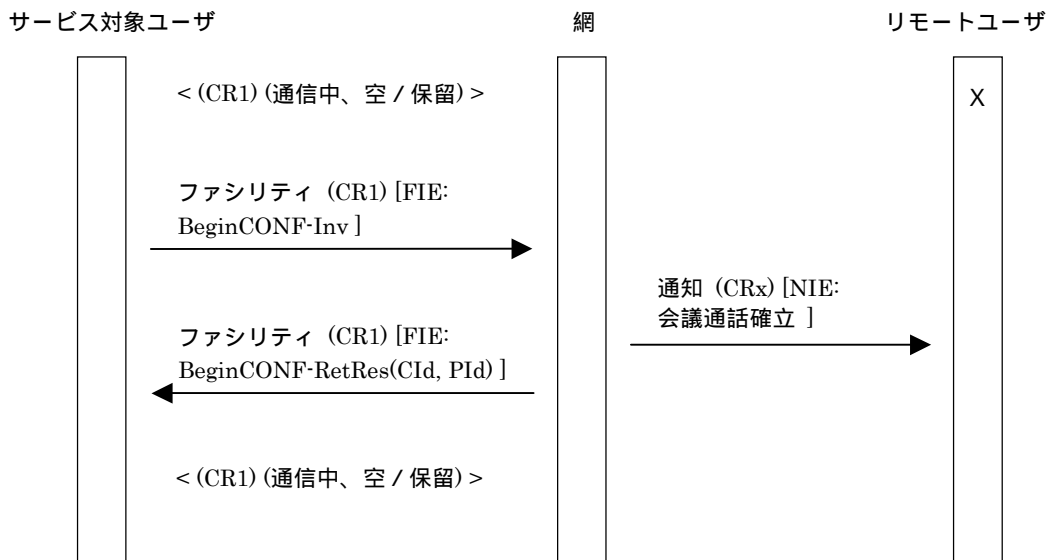
- 図 1 a) (空状態からの会議開始)
- 図 1 b) (通信中状態からの会議開始)
- 図 2 (既存呼の会議への追加)
- 図 3 (新規呼の会議への追加)
- 図 4 (着信呼の会議への追加)

- 図 5 (加入者隔離)
- 図 6 (加入者復帰)
- 図 7 (加入者分離)
- 図 8 (サービス対象ユーザによる加入者切断)
- 図 9 (加入者による切断)
- 図 10 (会議終了)
- 図 11 (フローティング許容時のサービス対象ユーザによる切断)
- 図 12 (フローティング非許容時のサービス対象ユーザによる切断)
- 図 13 (会議からのサービス対象ユーザ切断のための明白な要求)

注 - 図 1 から図 13 では、リモートユーザを識別するために識別子 X 及び N を用いる。リモートユーザ 1, 2, 3, 4, 5 がいる会議通話でリモートユーザ 3 が切断された場合、X はリモートユーザ 3 を表し N はリモートユーザ 1, 2, 4, 5 を表す。

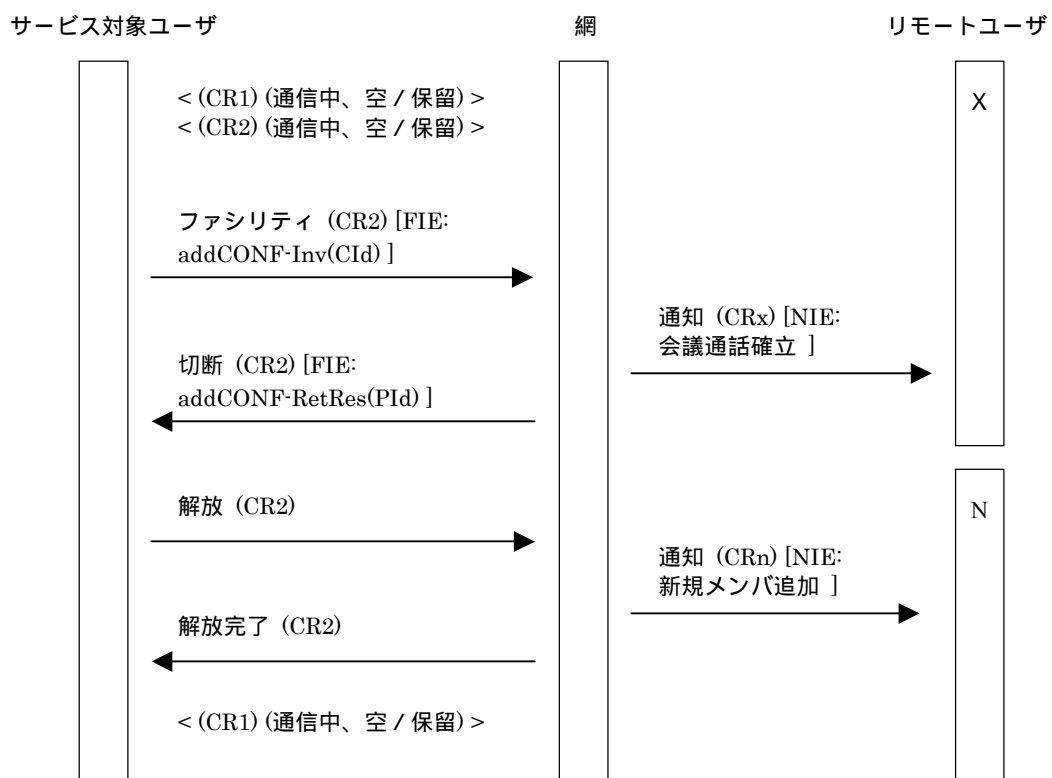


a) 空状態からの会議開始



b) 通信中状態からの会議開始

図 1 / JT - Q 9 5 4 . 1
(ITU-T Q.954.1)

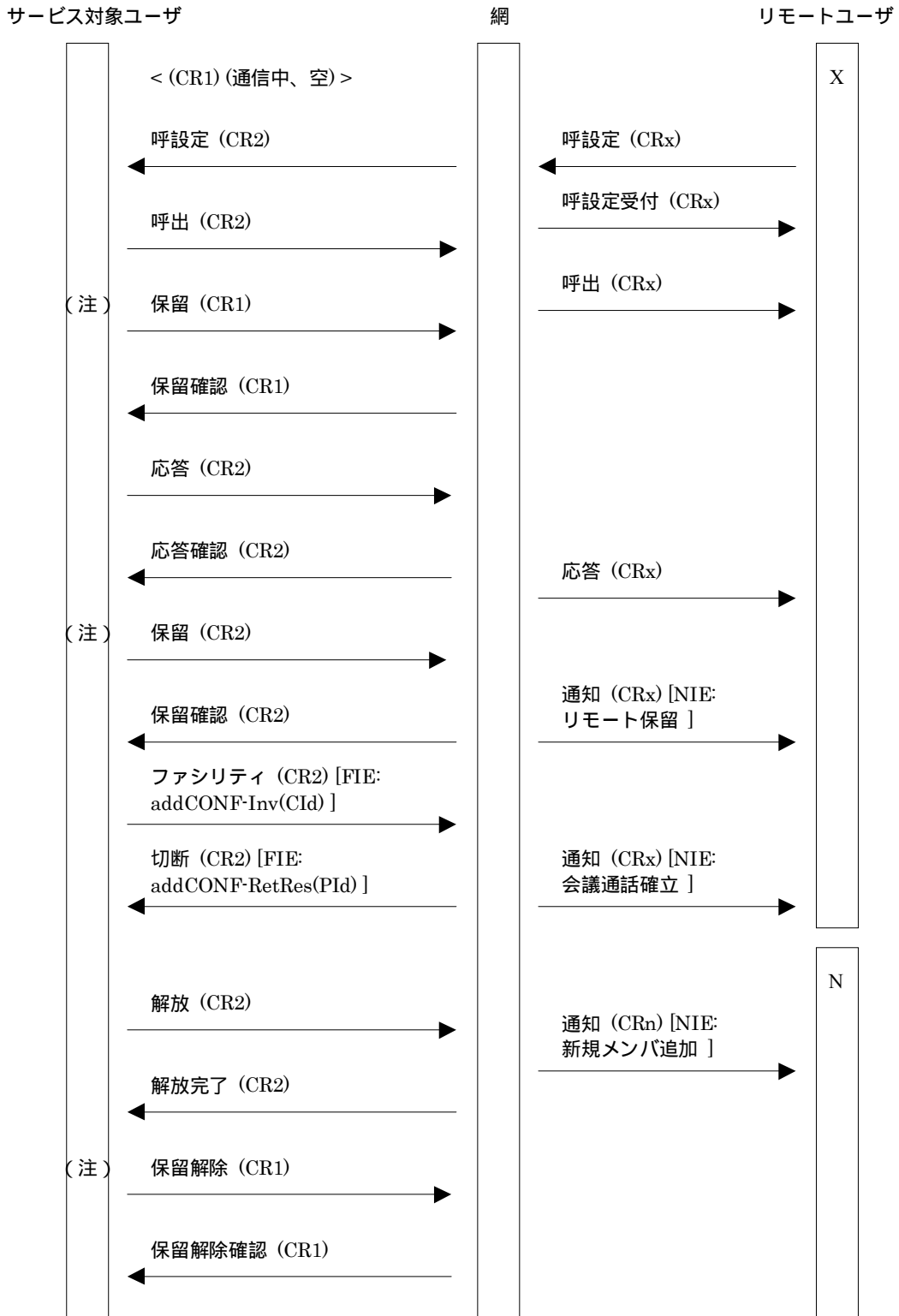


T T C 注 - 解放完了メッセージの矢印の向きに関して、I T U - T 勧告に明らかな誤りがあるため訂正した。

図 2 / J T - Q 9 5 4 . 1

(ITU-T Q.954.1)

既存呼の会議への追加



注 - これは、保留サービスを使用しており、会議通話 (CONF) 付加サービスの本質的な部分ではない。
 TTC注 - addCONF-RetRes を含めるメッセージ名に関してITU - T勧告に明らかな誤りがあるため訂正した。

図4 / JT - Q954.1
 (ITU-T Q.954.1)
 着信呼の会議への追加

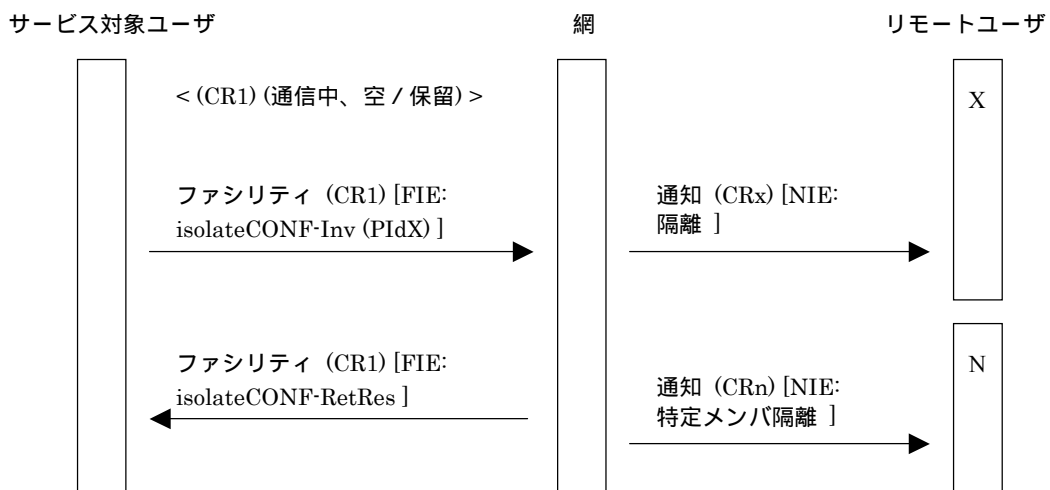


図 5 / J T - Q 9 5 4 . 1
(ITU-T Q.954.1)
加入者隔離

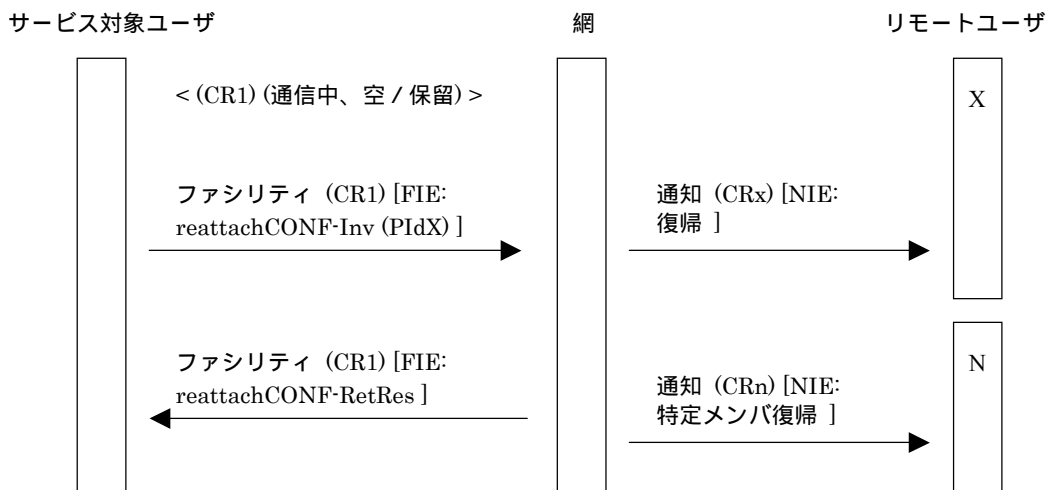


図 6 / J T - Q 9 5 4 . 1
(ITU-T Q.954.1)
加入者復帰

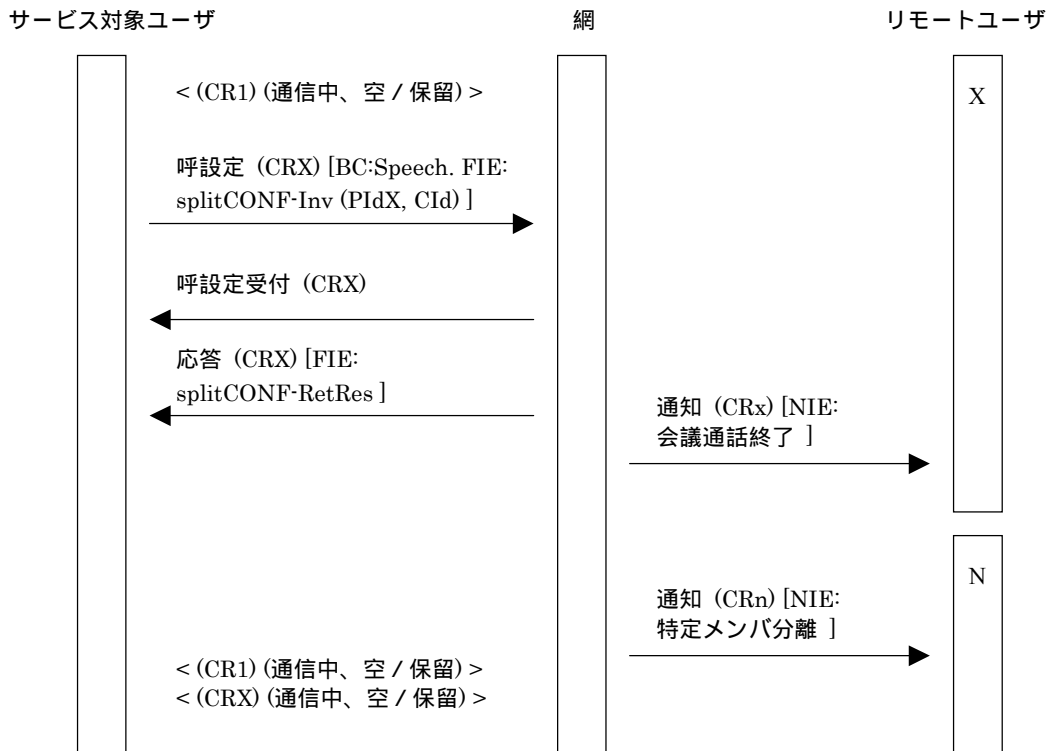


図7 / JT - Q 9 5 4 . 1

(ITU-T Q.954.1)

加入者分離

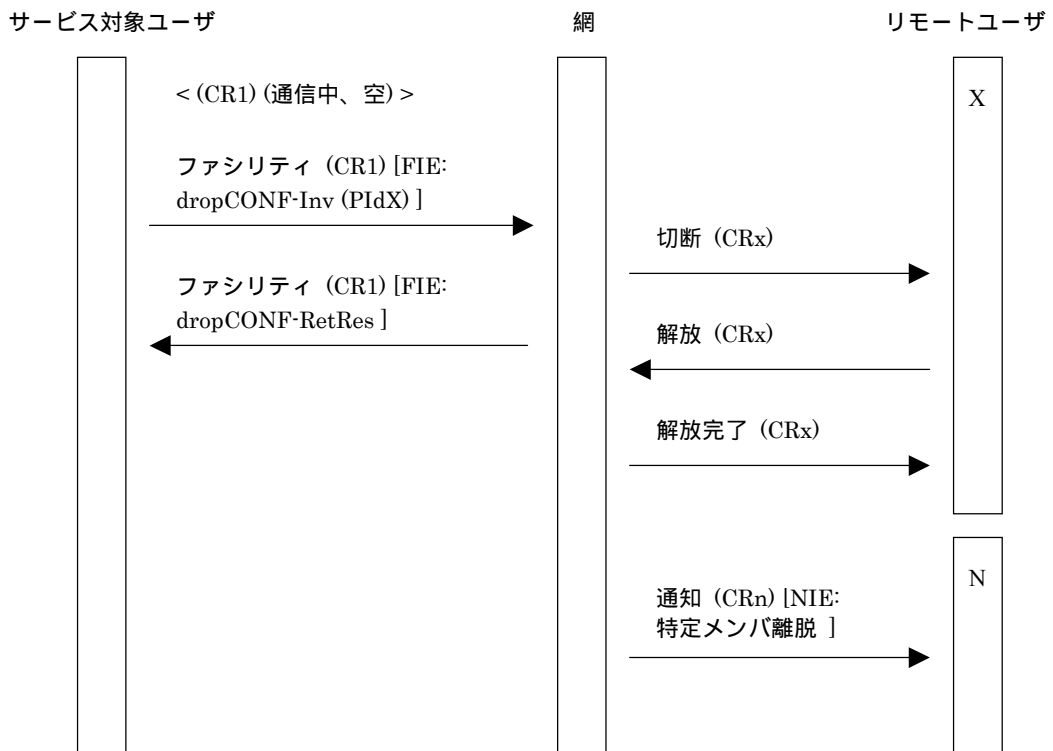


図8 / JT - Q 9 5 4 . 1

(ITU-T Q.954.1)

サービス対象ユーザによる加入者切断

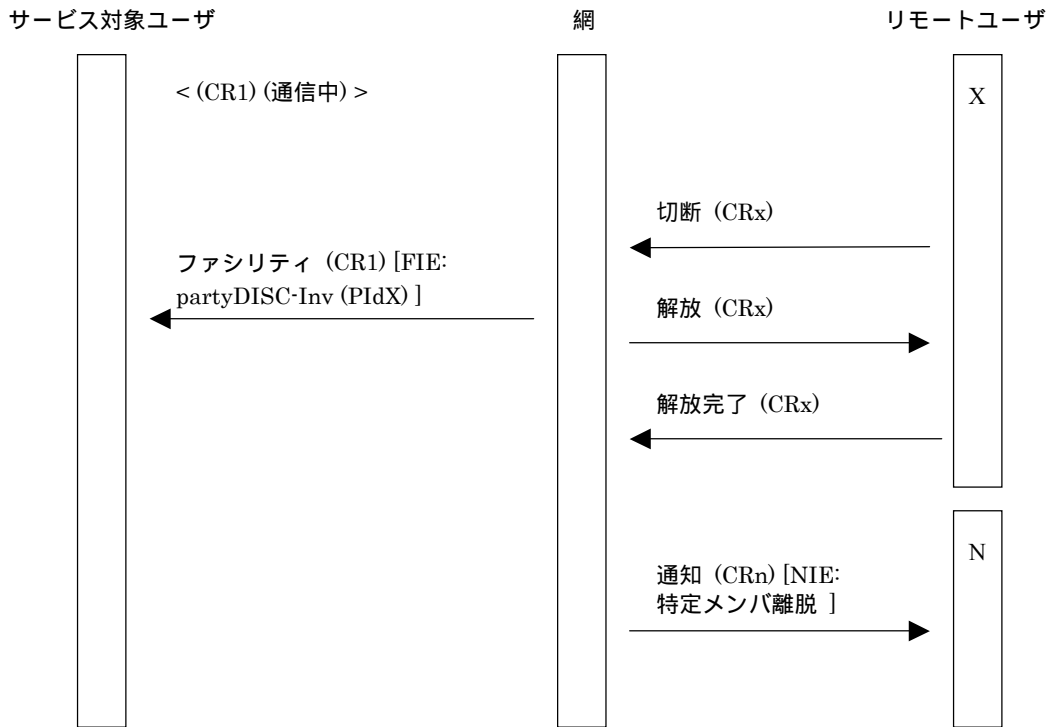


図 9 / J T - Q 9 5 4 . 1

(ITU-T Q.954.1)

加入者による切断

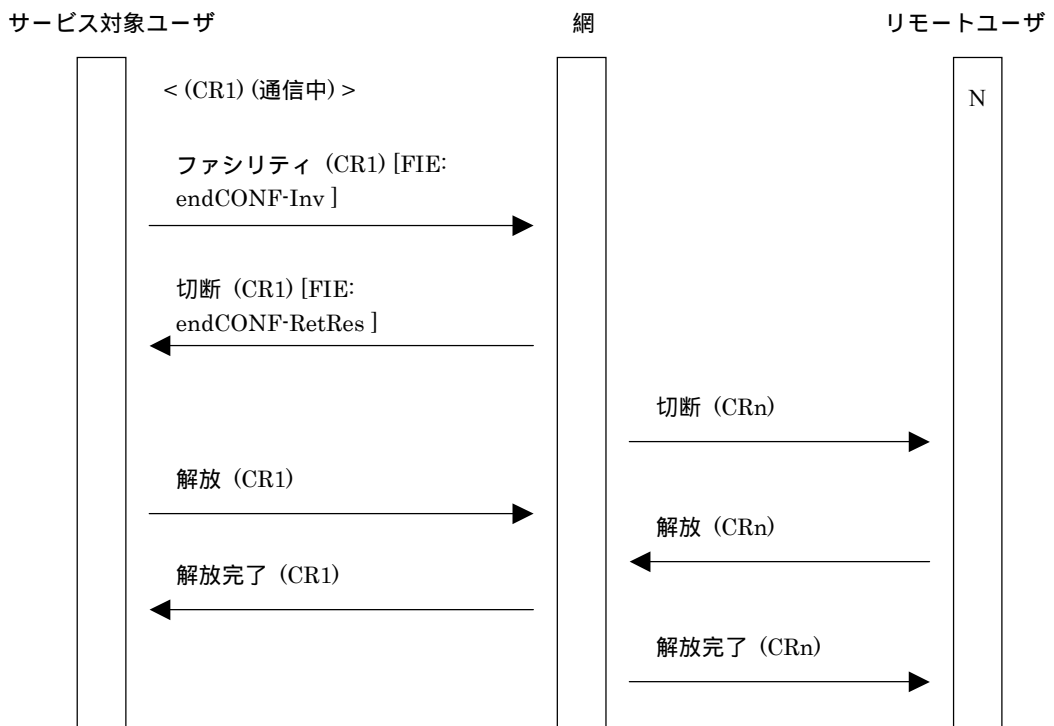


図 10 / J T - Q 9 5 4 . 1

(ITU-T Q.954.1)

会議終了

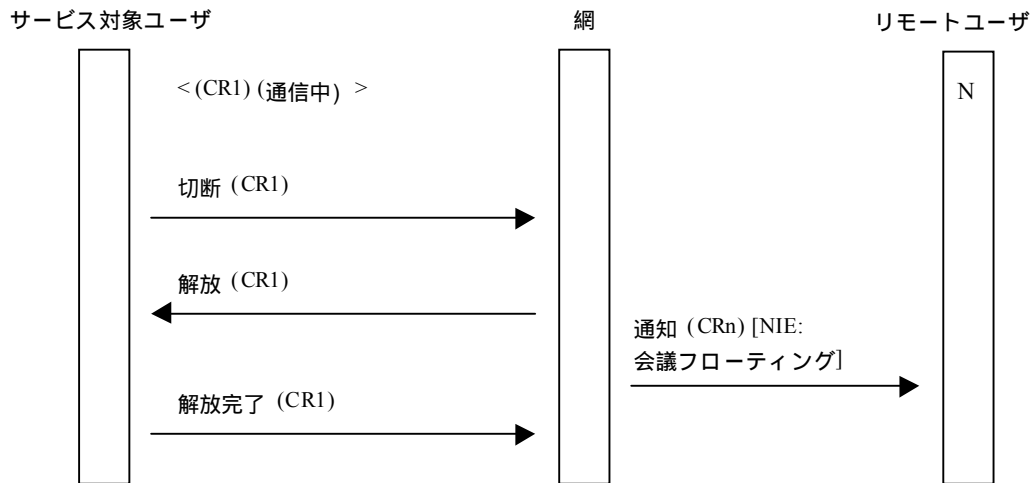


図 1 1 / J T - Q 9 5 4 . 1

(ITU-T Q.954.1)

フローティング許容時のサービス対象ユーザによる切断

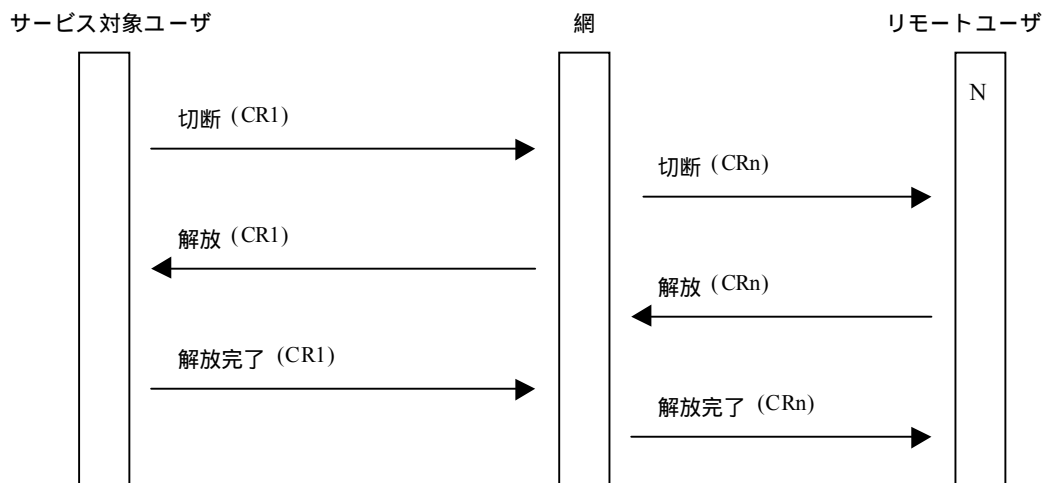


図 1 2 / J T - Q 9 5 4 . 1

(ITU-T Q.954.1)

フローティング非許容時のサービス対象ユーザによる切断

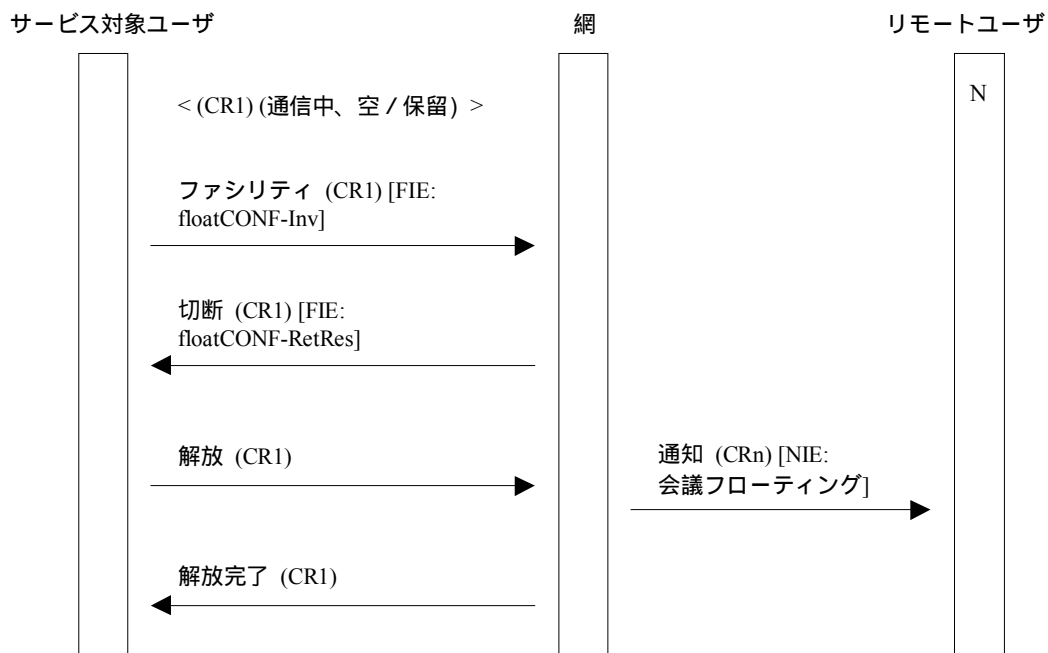


図 13 / J T - Q 9 5 4 . 1

(ITU-T Q.954.1)

会議からのサービス対象ユーザ切断のための明白な要求

9 . パラメータ値

適用されない。

1 0 . 動的記述 (S D L)

会議通話 (C O N F) 付加サービスのユーザ側プロセスの動的記述を図 1 4 / J T - Q 9 5 4 . 1 に、会議通話 (C O N F) 付加サービスの網側プロセスの動的記述を図 1 5 / J T - Q 9 5 4 . 1 に示す。

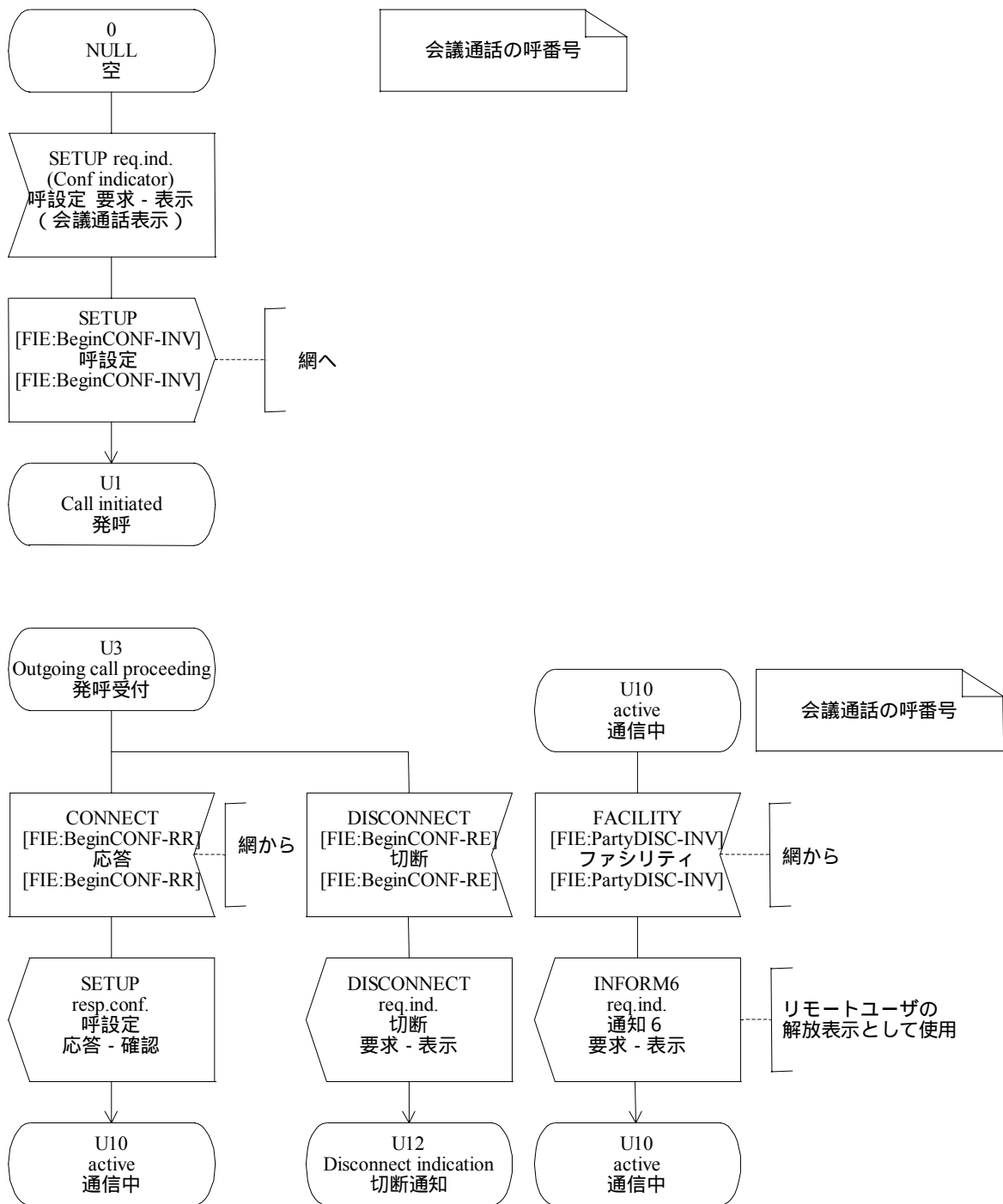
注 - S D L はアクセスプロトコルのみを考慮している。機能動作については S D L の中には反映されていない。

S D L 図は、 I T U - T 勧告 Z . 1 0 0 [6] の中で定義されている。

S D L は、 I T U - T 勧告 Q . 8 4 [7] の中で定義される会議通話 (C O N F) 、会議通話拒否 (C O N F R E J E C T) 、追加 (A D D) 、追加拒否 (A D D R E J E C T) 、分離 (S P L I T) 、分離拒否 (S P L I T R E J E C T) 、隔離 (I S O L A T E) 、隔離拒否 (I S O L A T E R E J E C T) 、復帰 (R E A T T A C H) 、復帰拒否 (R E A T T A C H R E J E C T) 、離脱 (D R O P) 、離脱拒否 (D R O P R E J E C T) および通知 6 (I N F O R M 6) と、 I T U - T 勧告 Q . 7 1 [3] で定義される呼設定 (S E T U P) を情報フローとして参照する。

呼が会議に追加された後に適用される、ローカル側の切断復旧手順の S D L は、標準 J T - Q 9 3 1 [2] で定義される。

会議参加者の通知手順の S D L は、標準 J T - Q 9 3 1 [2] で定義される。



T T C 注 - リモート解放時に網から送られるコンポーネント名に関して明らかな誤りがある為訂正した。

図 1 4 / J T - Q 9 5 4 . 1 (1 / 9)

(ITU-T Q.954.1)

ユーザ側の S D L プロセス

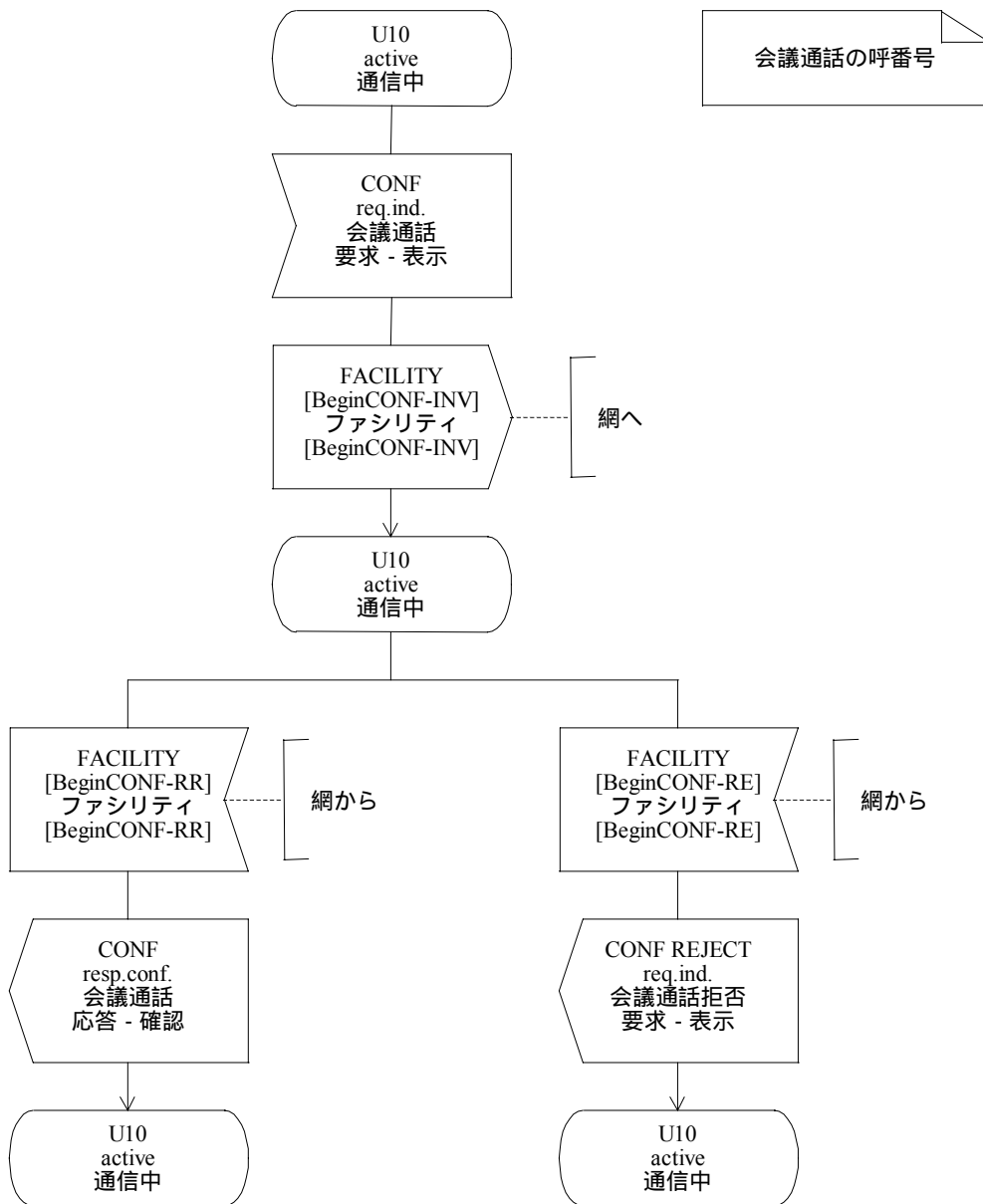


図 1 4 / J T - Q 9 5 4 . 1 (2 / 9)

(ITU-T Q.954.1)

ユーザ側の S D L プロセス

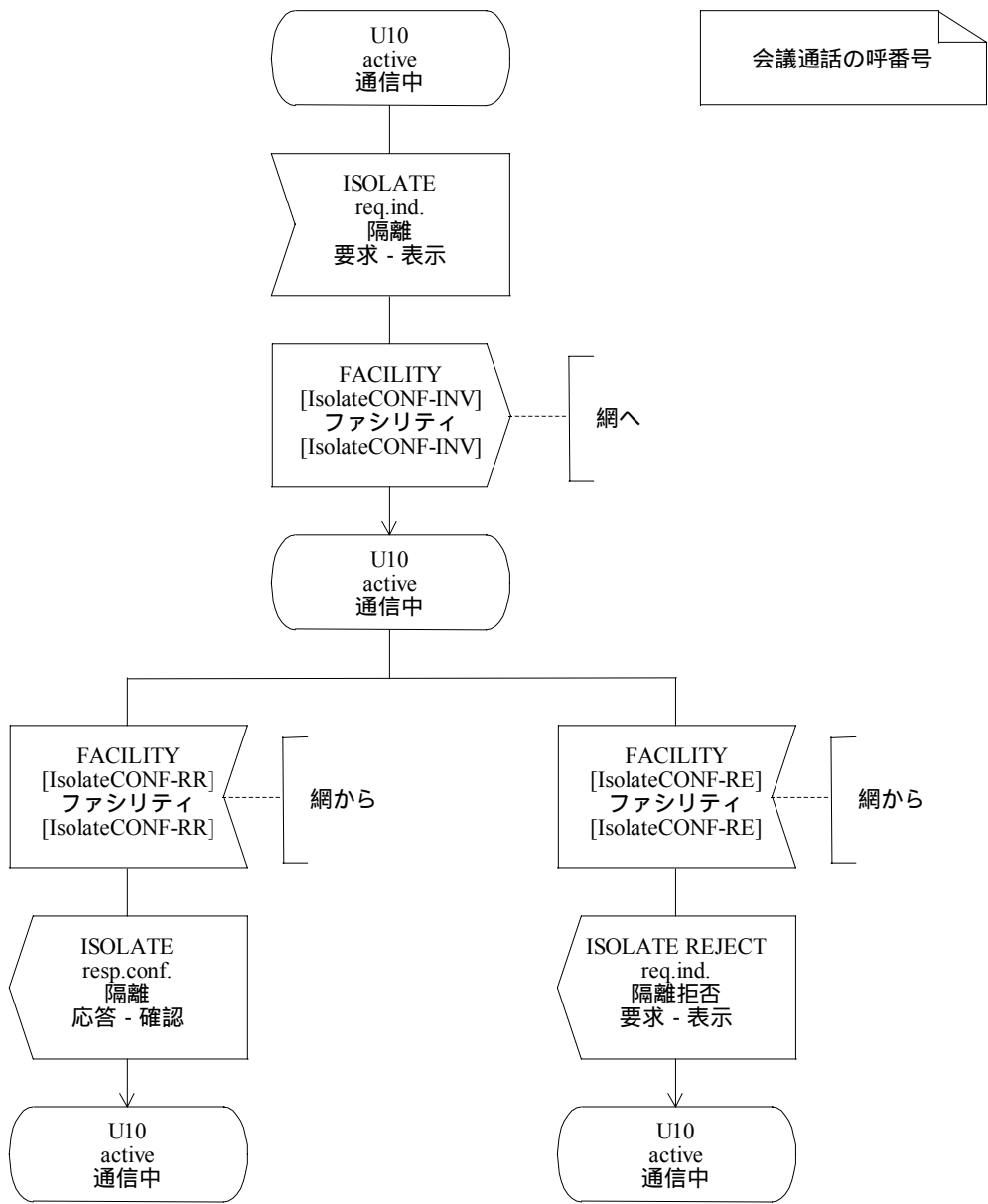
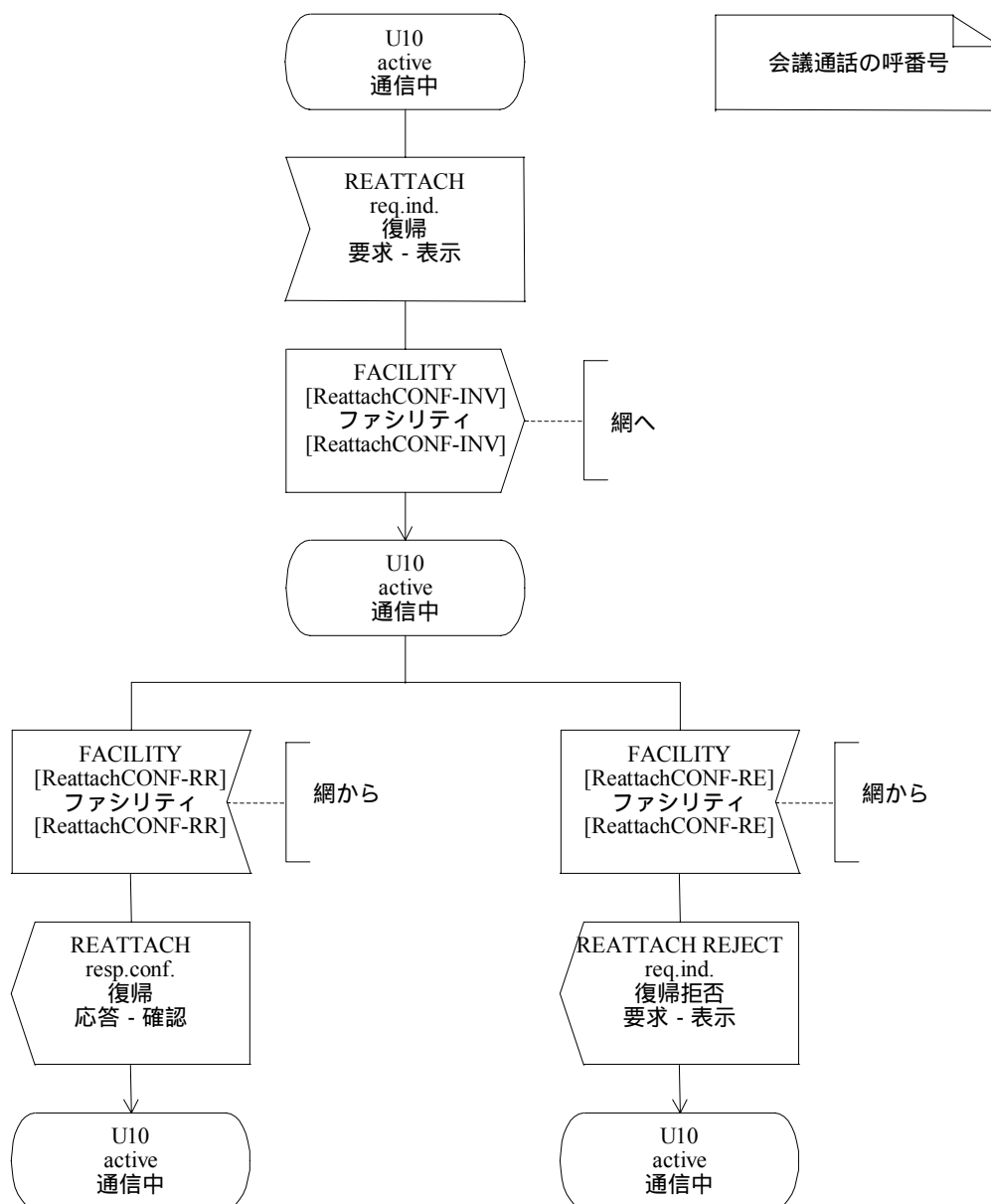


図 14 / JT - Q 9 5 4 . 1 (3 / 9)

(ITU-T Q.954.1)

ユーザ側のSD-Lプロセス



TTT注 - 復帰が成功したことを示すプリミティブ名に関して、ITU-T勧告に明らかな誤りがあるため訂正した。

図14 / JT - Q954 . 1 (4 / 9)

(ITU-T Q.954.1)

ユーザ側のSDLプロセス

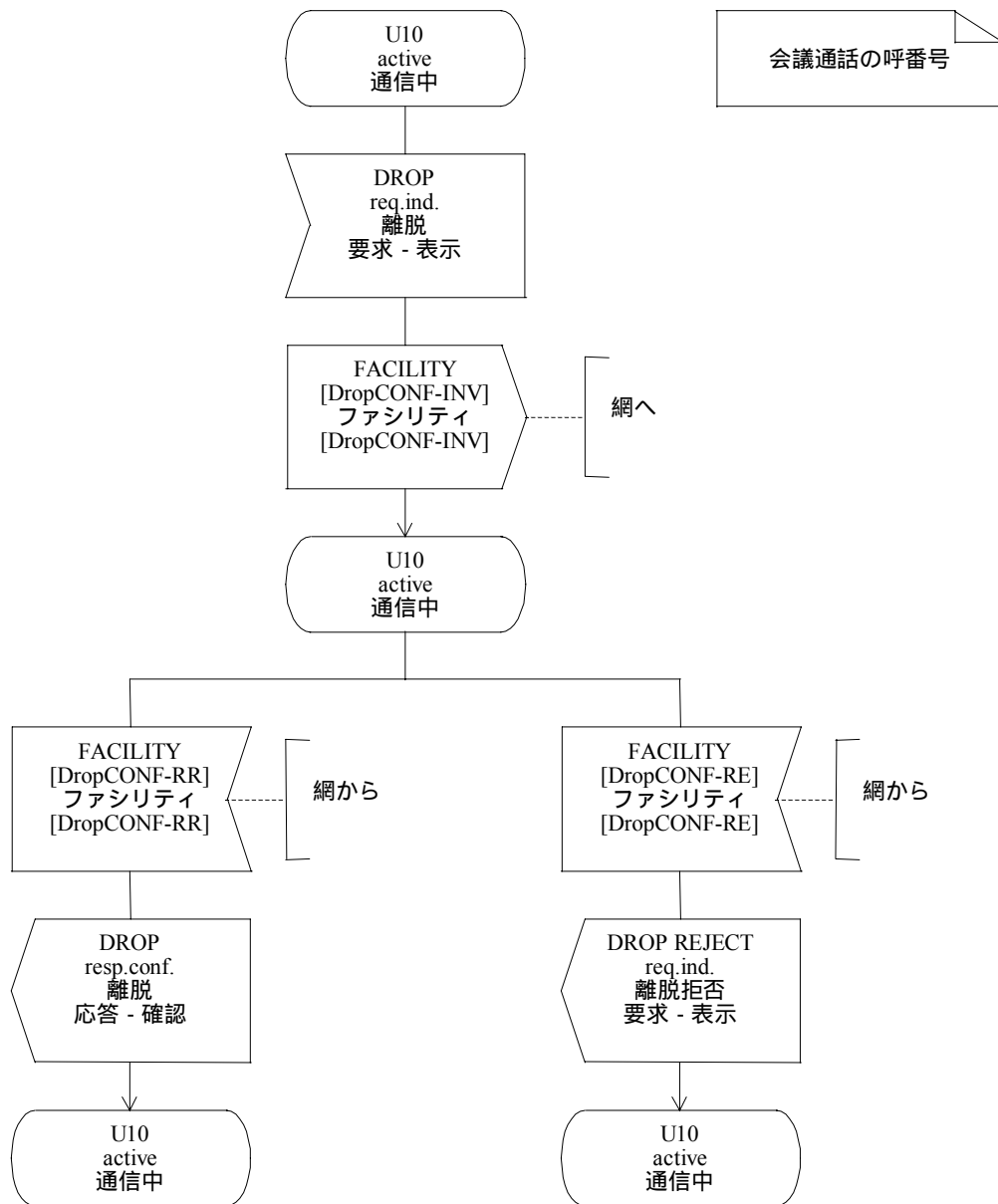


図 14 / JT - Q 9 5 4 . 1 (5 / 9)

(ITU-T Q.954.1)

ユーザ側の S D L プロセス

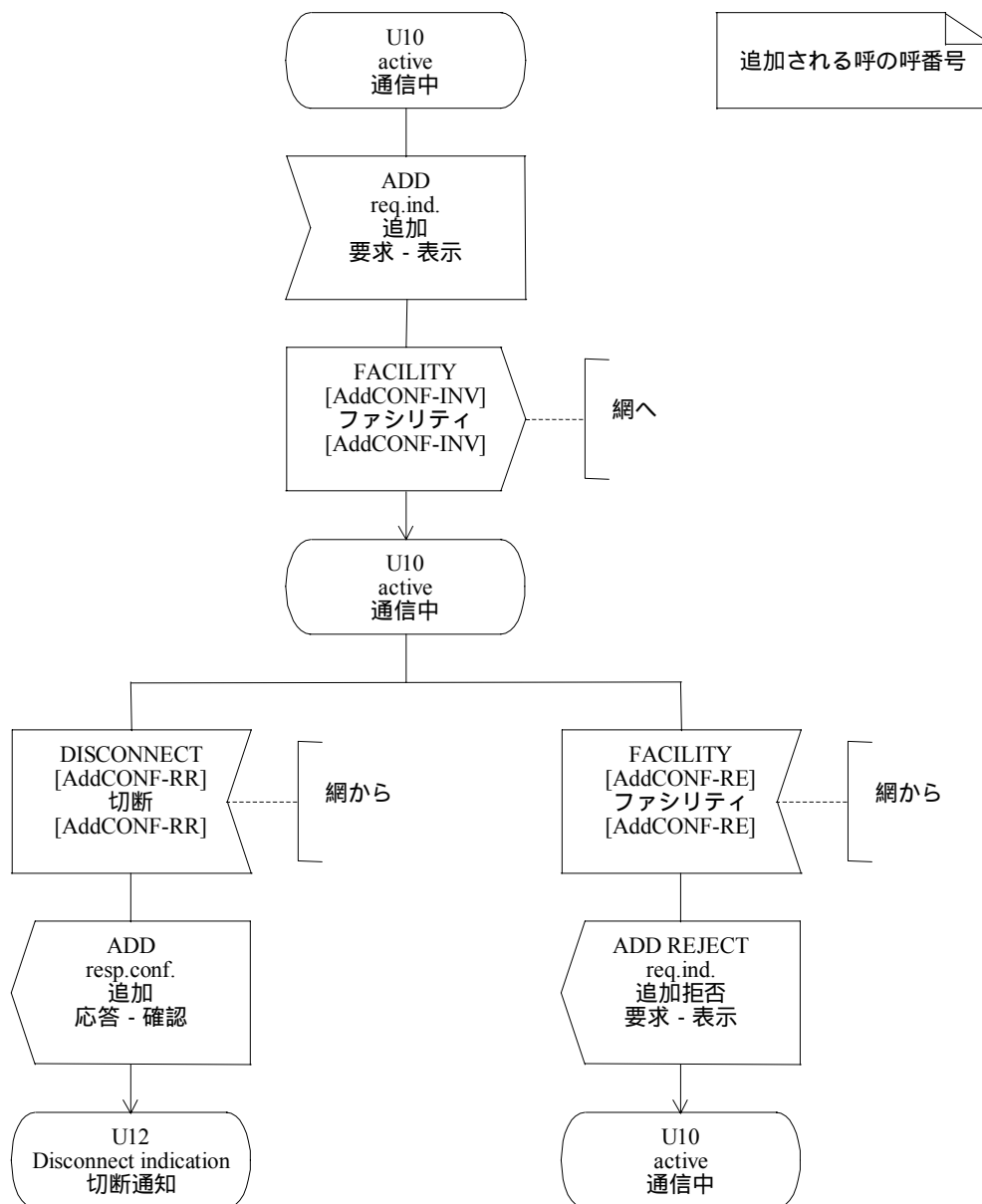


図 14 / JT - Q 9 5 4 . 1 (6 / 9)

(ITU-T Q.954.1)

ユーザ側の S D L プロセス

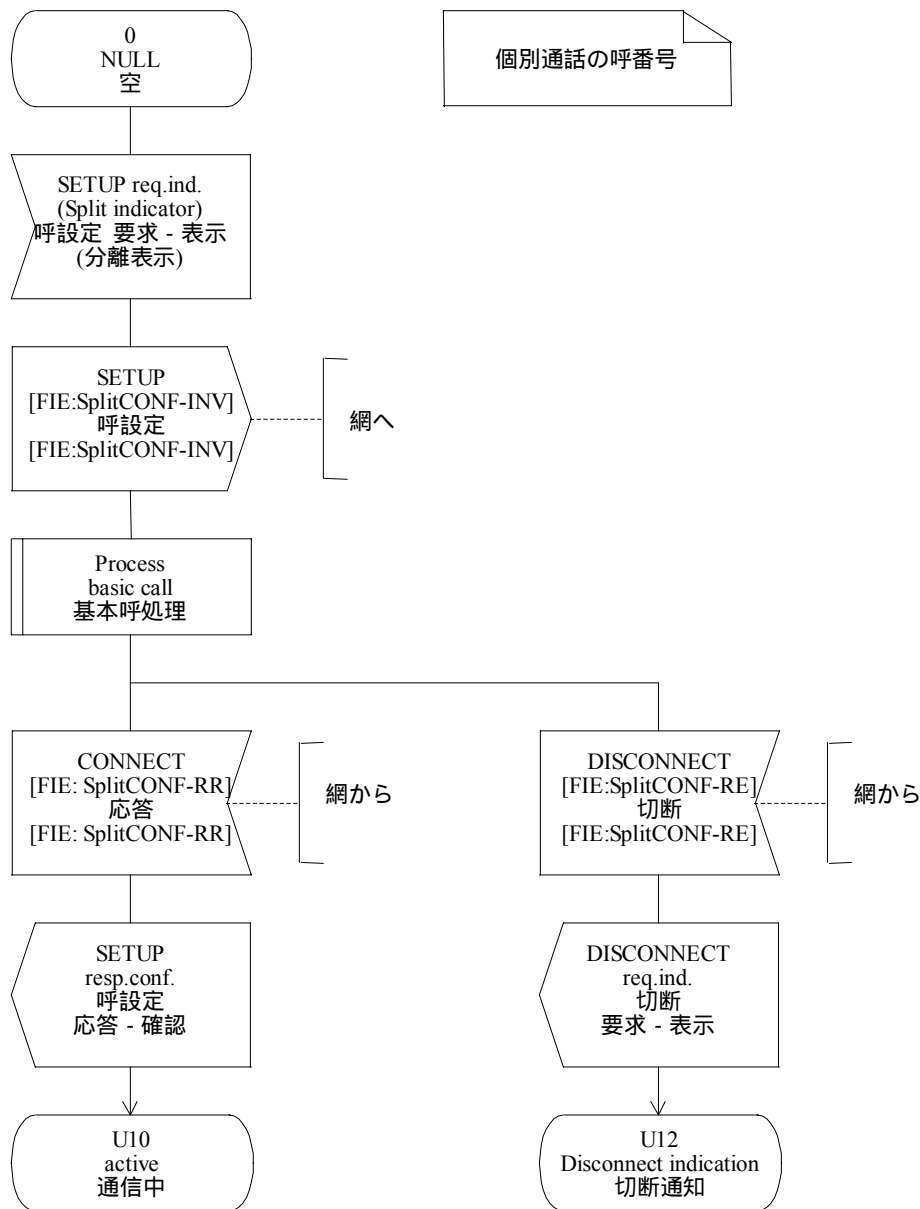


図14 / JT - Q954 . 1 (7 / 9)

(ITU-T Q.954.1)

ユーザ側のSDPプロセス

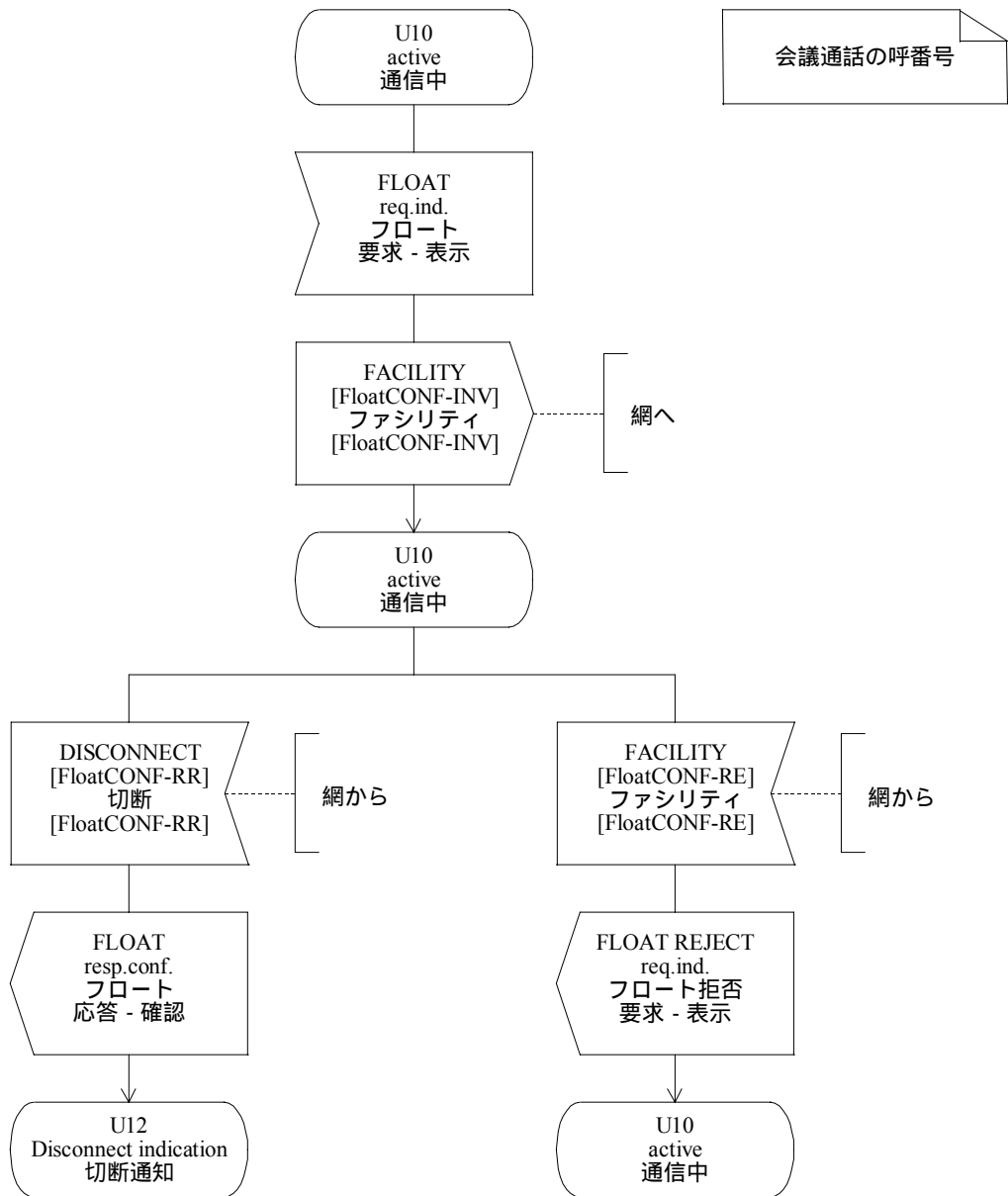


図 14 / JT - Q 9 5 4 . 1 (8 / 9)

(ITU-T Q.954.1)

ユーザ側の S D L プロセス

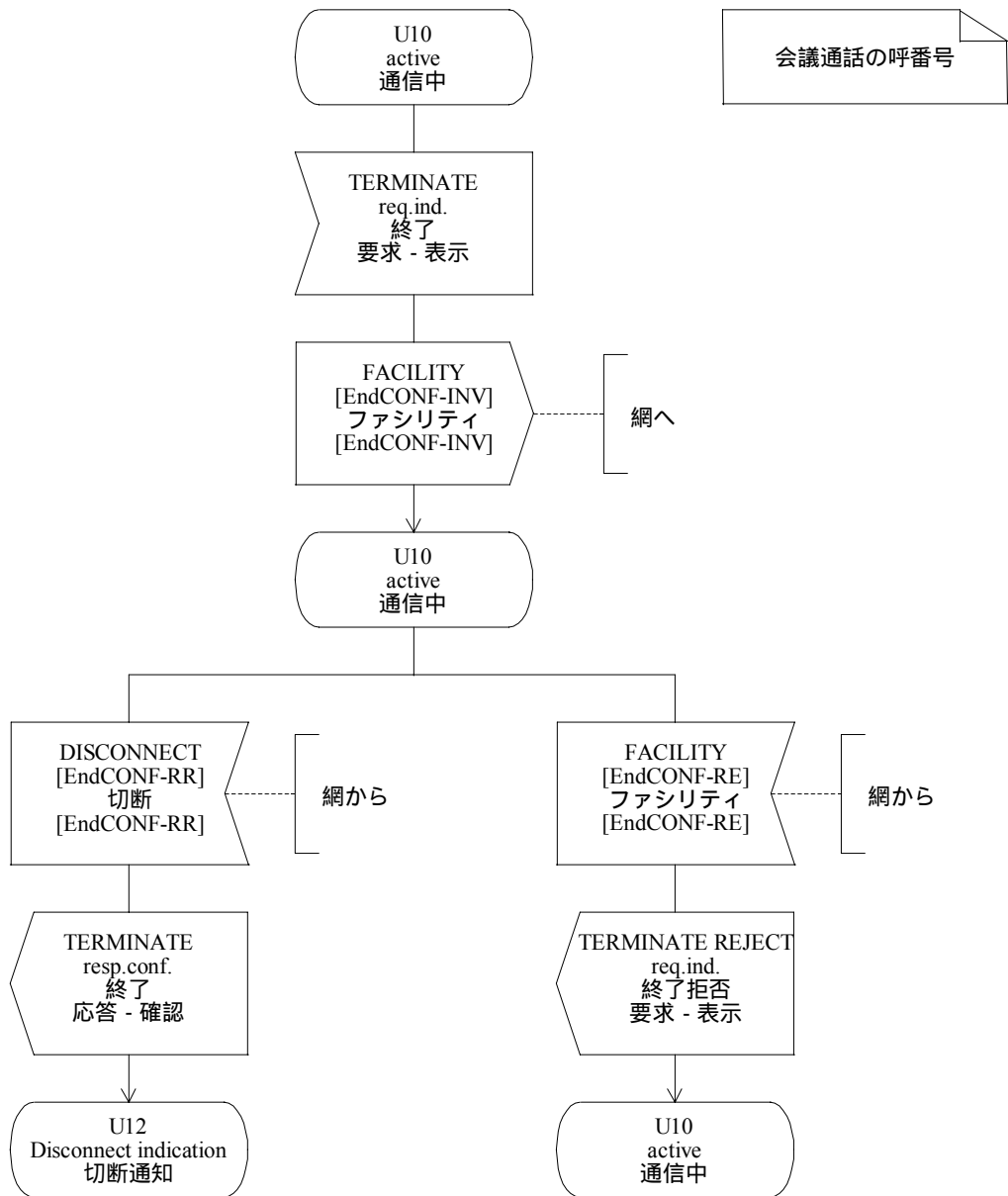
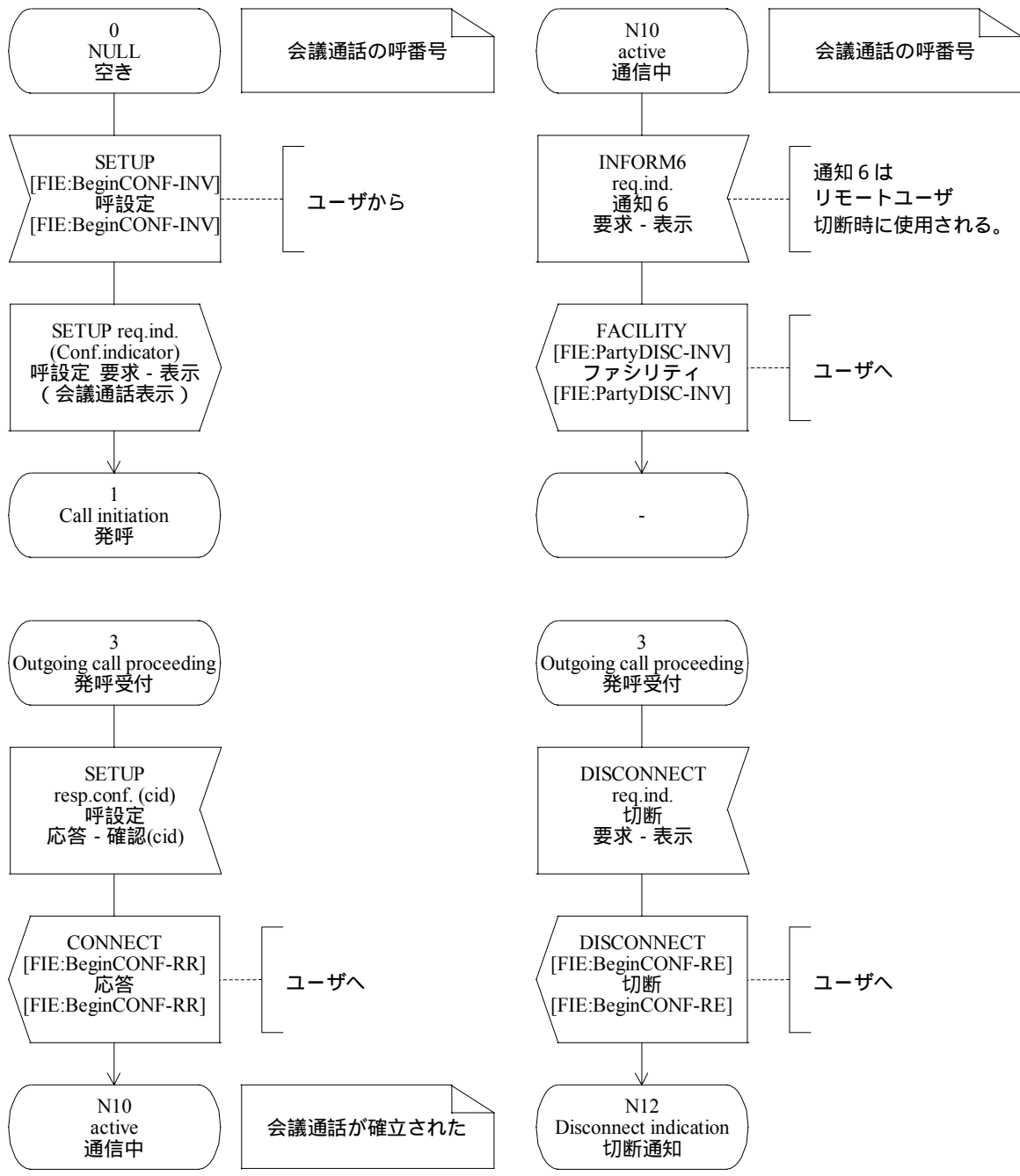


図 14 / JT - Q 9 5 4 . 1 (9 / 9)

(ITU-T Q.954.1)

ユーザ側のSD-Lプロセス



TTC注 - リモートユーザ切断時にユーザへ送られるコンポーネント名に関してITU-T勧告に明らかな誤りがあるため訂正した。

図15 / JT - Q954.1 (1 / 9)

(ITU-T Q.954.1)

網側のSDLプロセス

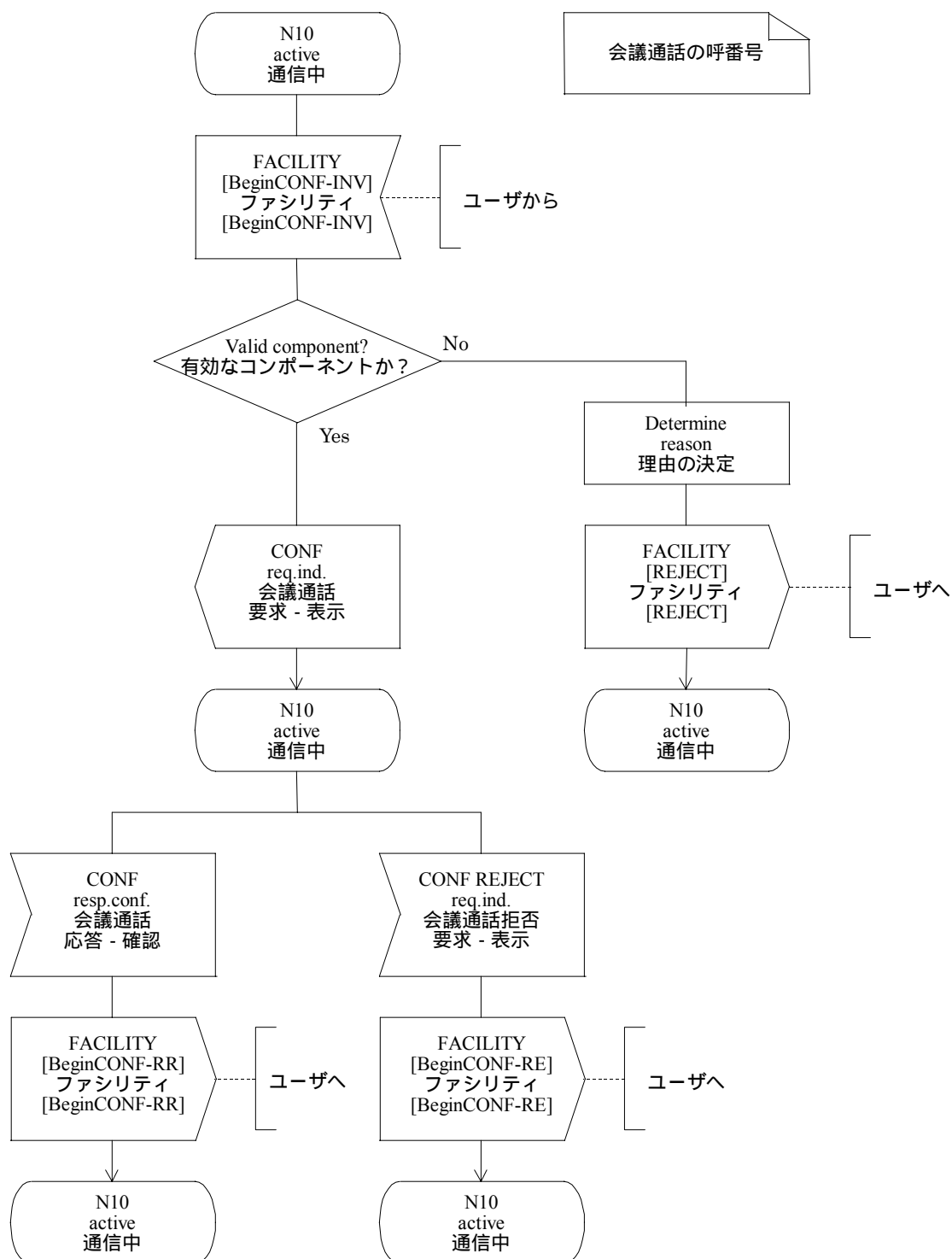


図 15 / JT - Q 9 5 4 . 1 (2 / 9)

(ITU-T Q.954.1)

網側の S D L プロセス

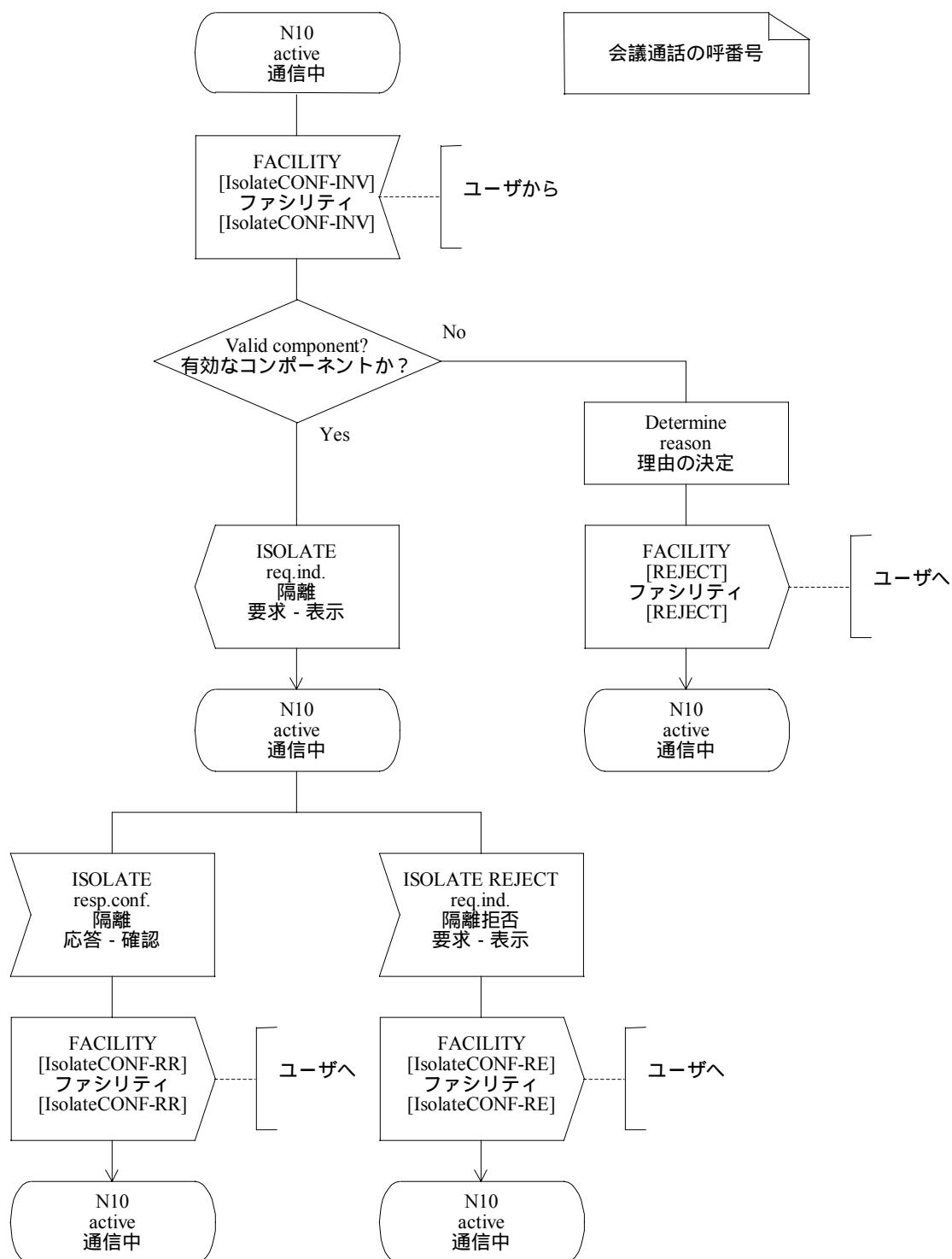


図 15 / J T - Q 9 5 4 . 1 (3 / 9)

(ITU-T Q.954.1)

網側の S D L プロセス

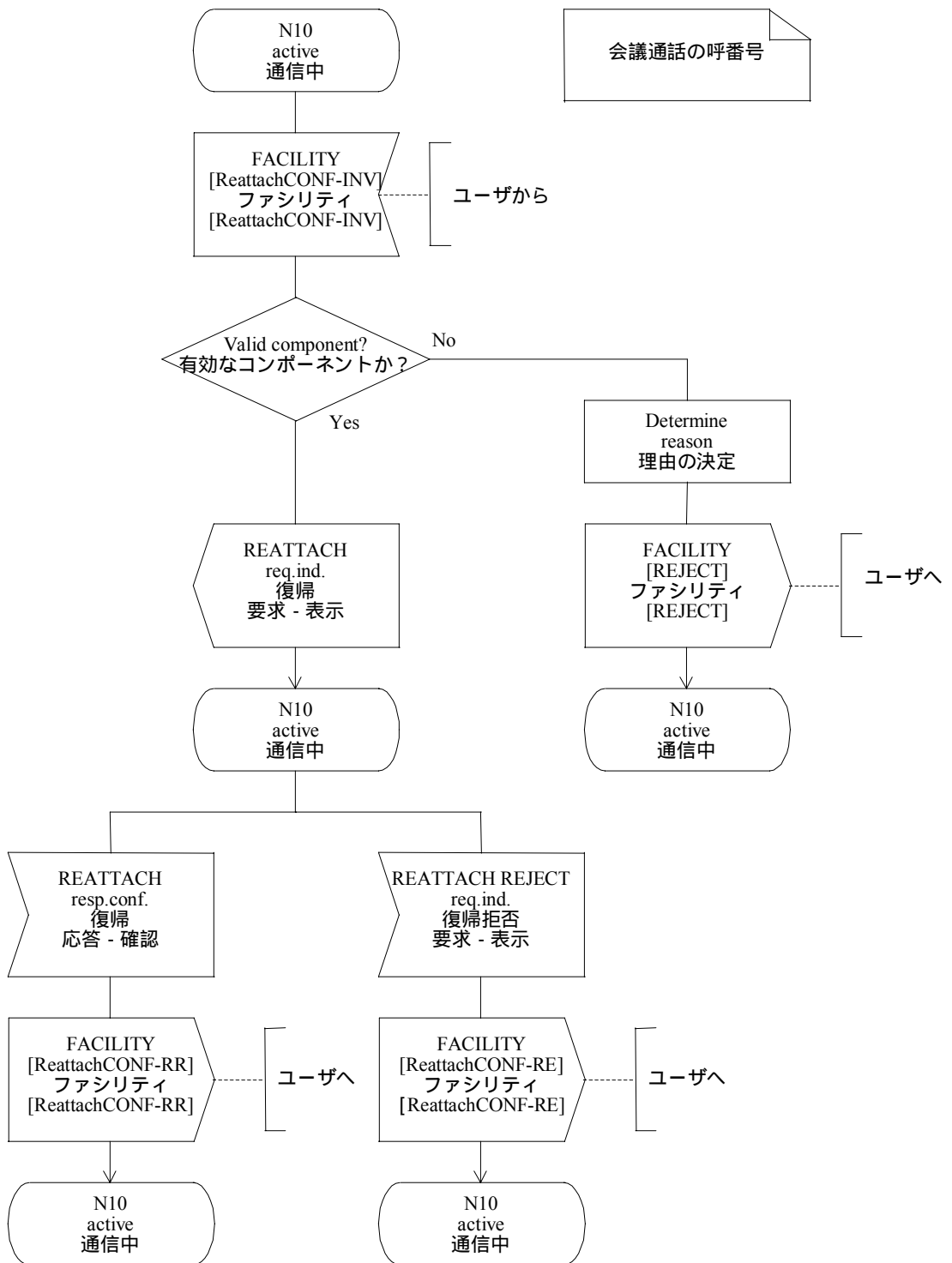


図 15 / JT - Q 9 5 4 . 1 (4 / 9)

(ITU-T Q.954.1)

網側の S D L プロセス

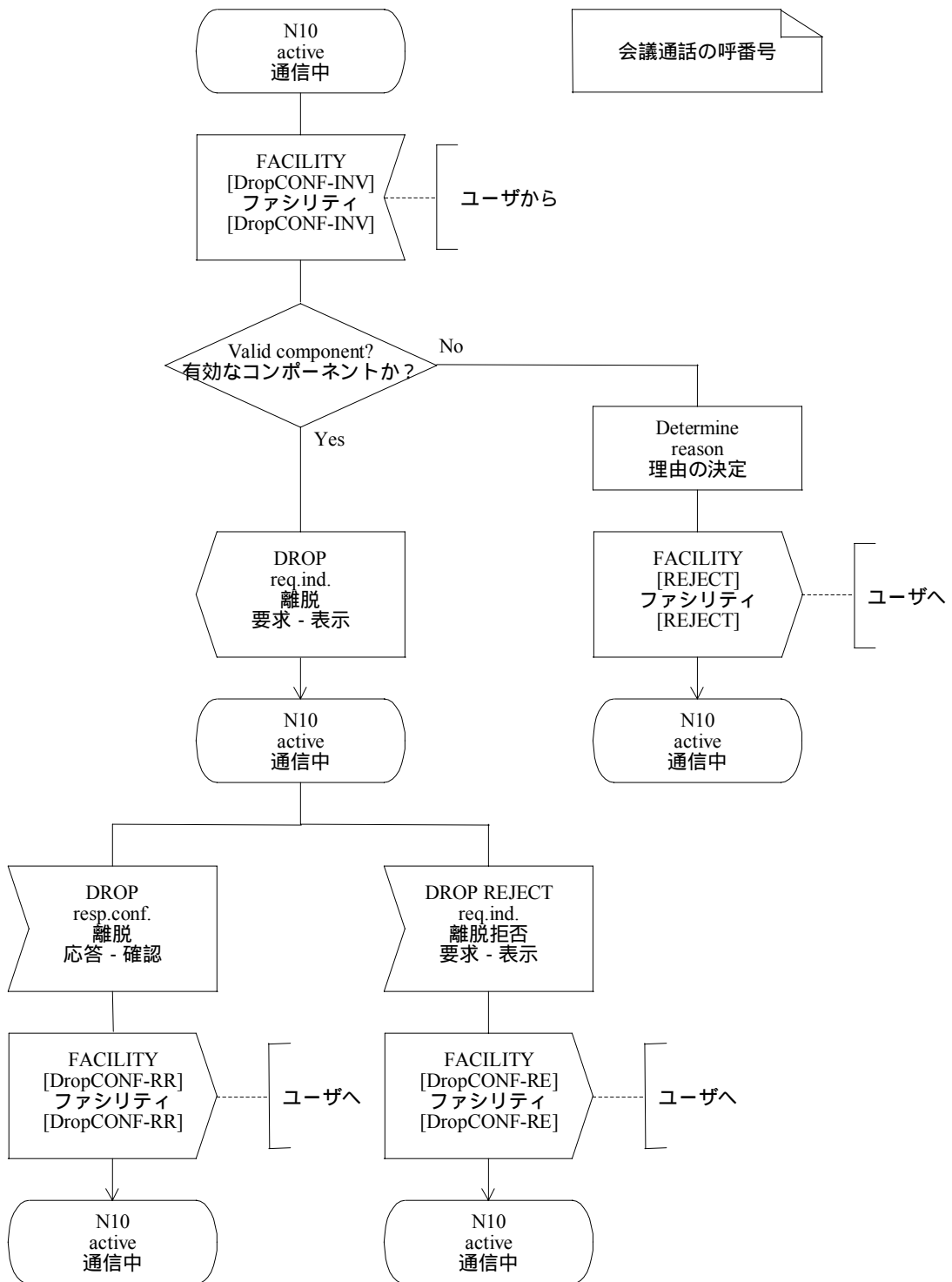


図 15 / JT - Q 9 5 4 . 1 (5 / 9)

(ITU-T Q.954.1)

網側の S D L プロセス

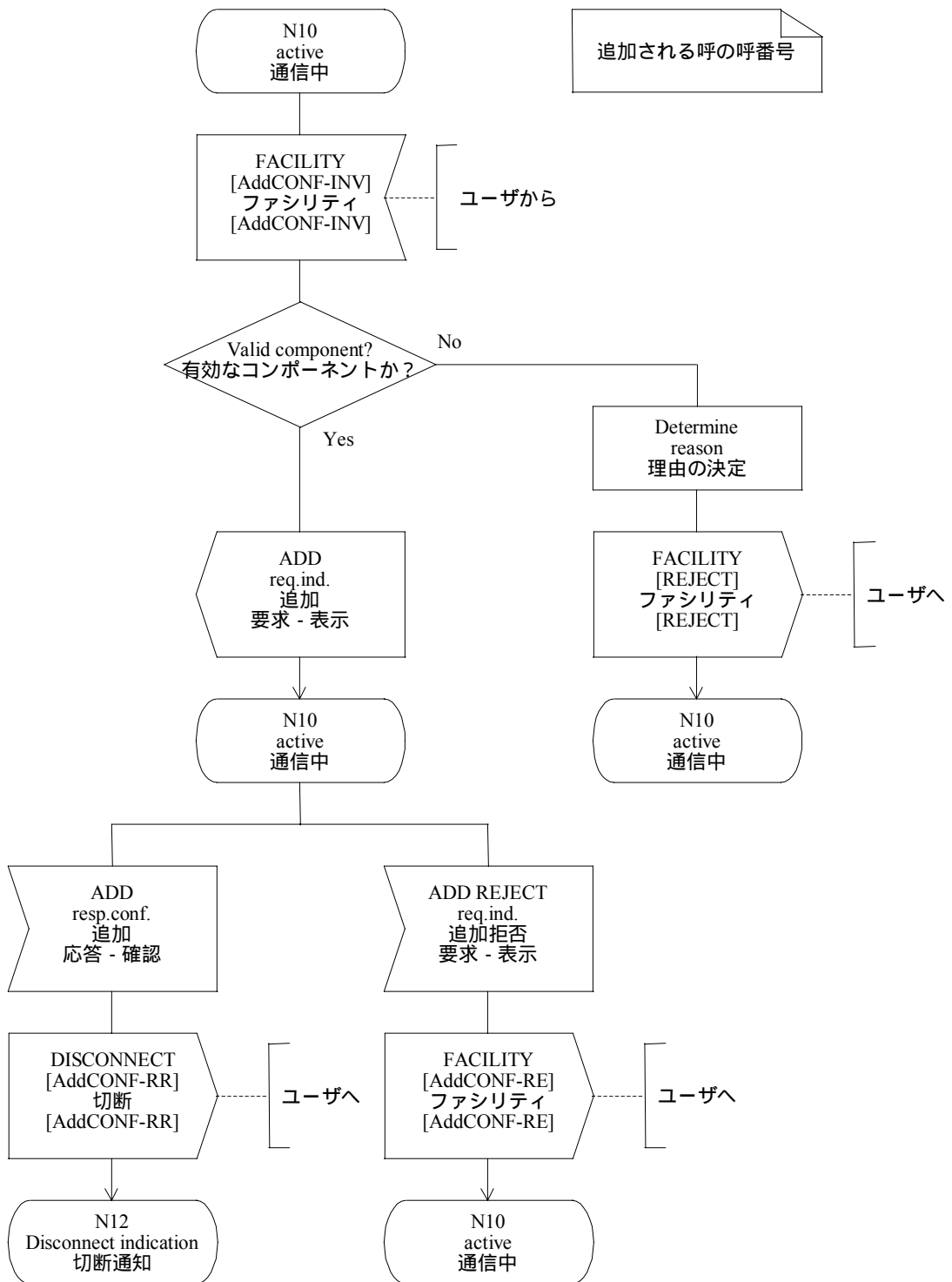


図 15 / J T - Q 9 5 4 . 1 (6 / 9)

(ITU-T Q.954.1)

網側の S D L プロセス

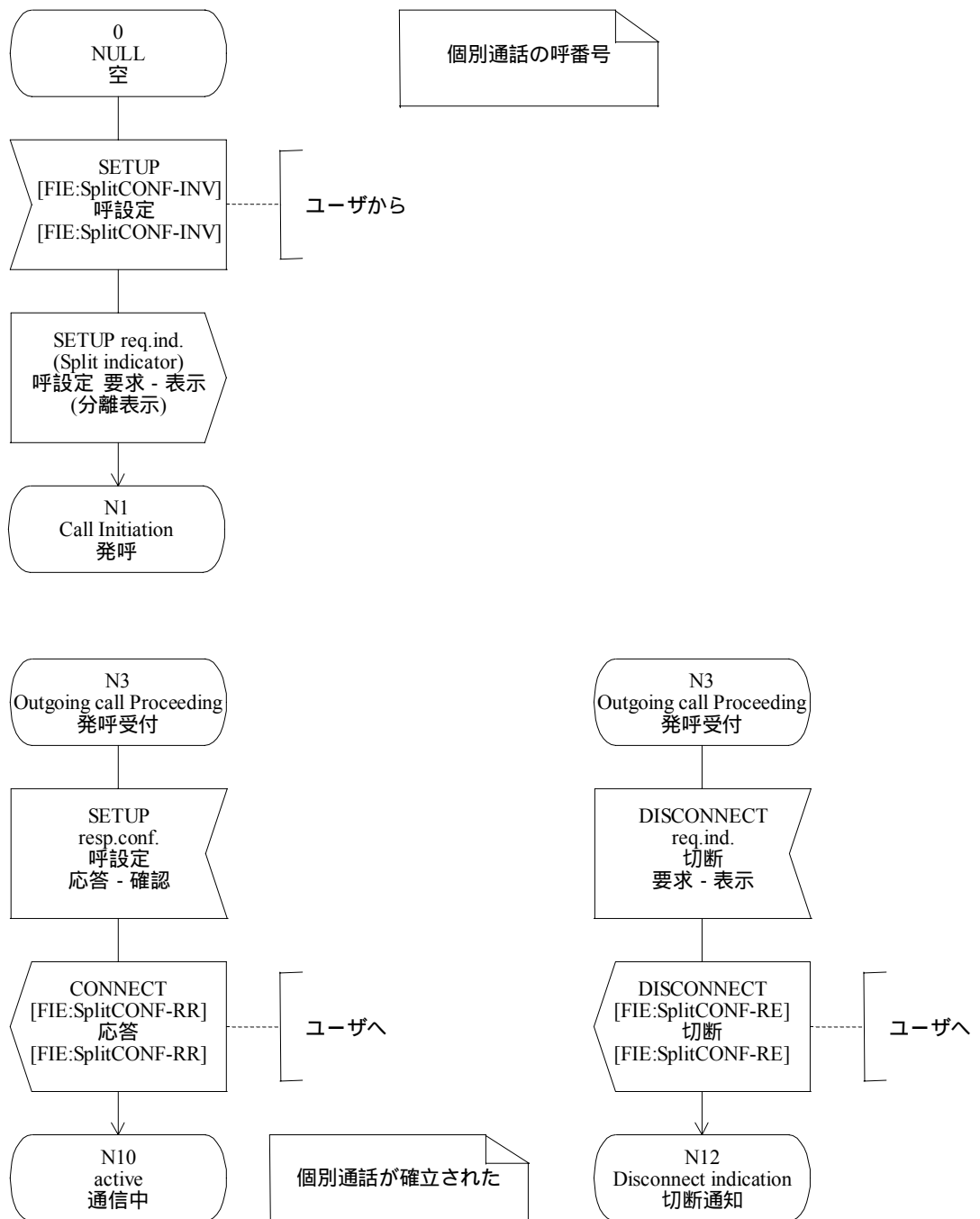


図 15 / JT - Q 9 5 4 . 1 (7 / 9)

(ITU-T Q.954.1)

網側の S D L プロセス

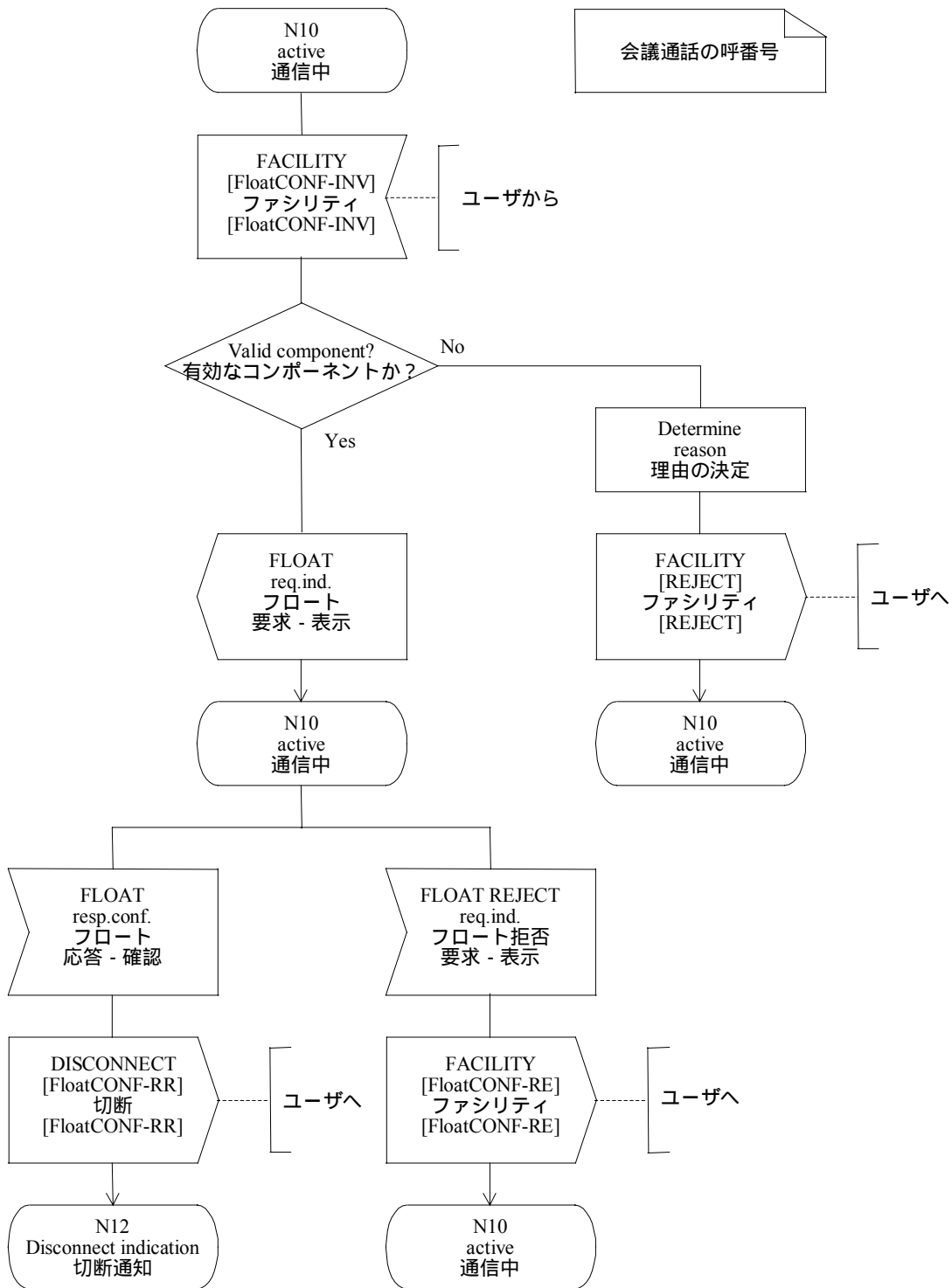


図 15 / J T - Q 9 5 4 . 1 (8 / 9)

(ITU-T Q.954.1)

網側の S D L プロセス

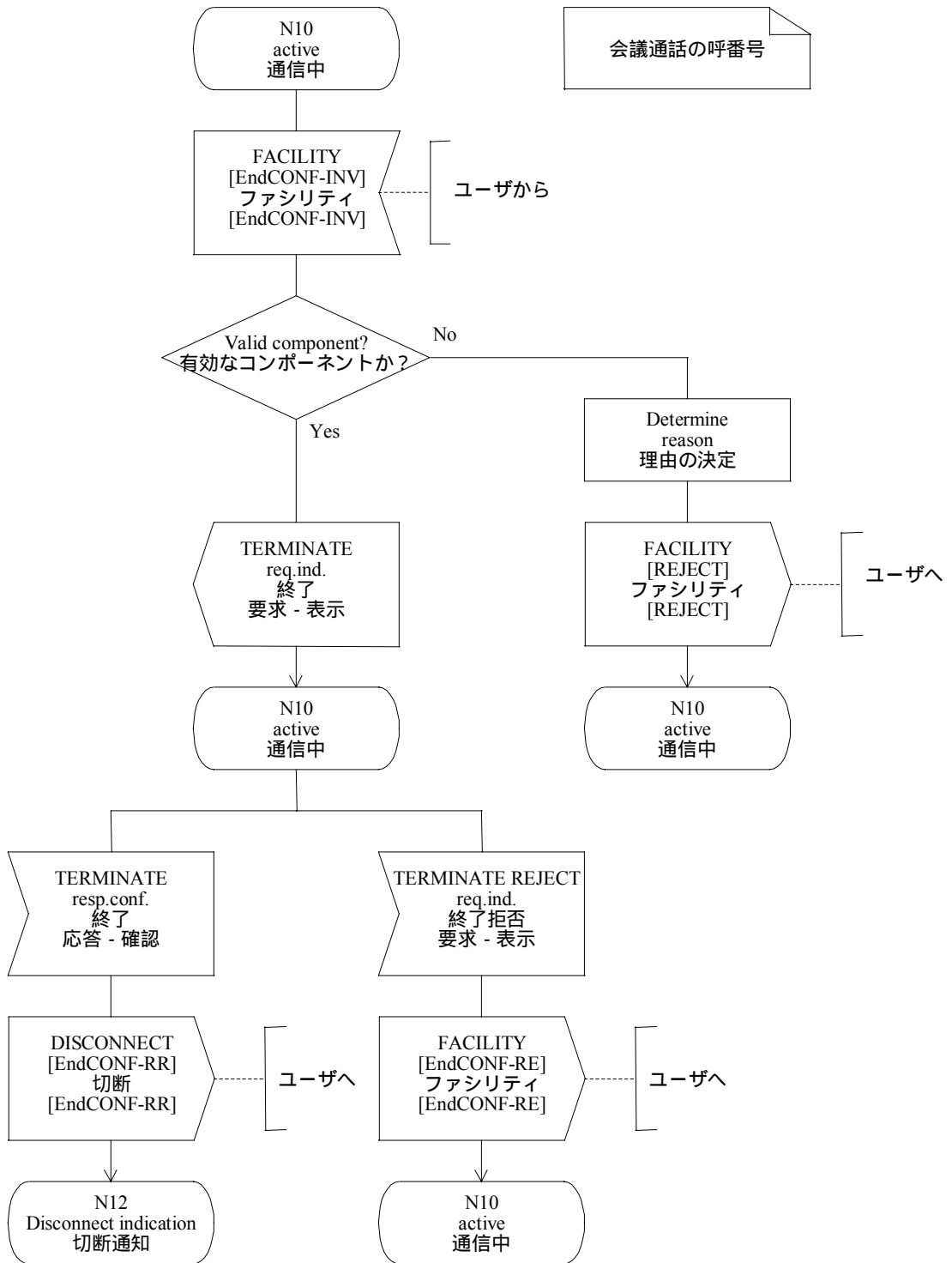


図 15 / J T - Q 9 5 4 . 1 (9 / 9)

(ITU-T Q.954.1)

網側の S D L プロセス

参考文献

- [1] TTC標準JT-Q932 - “ISDN付加サービス制御手順の共通原則”
- [2] TTC標準JT-Q931 - “ISDNユーザ・網インタフェース レイヤ3仕様”
- [3] ITU-T勧告Q.71 - “ISDN 64kbit/s circuit mode switched bearer services”
- [4] ITU-T勧告X.208 - “Specification of abstract syntax notation one(ASN.1)”
- [5] ITU-T勧告X.219 - “Remote operations:model, notation and service definition”
- [6] ITU-T勧告Z.100 - “SDL specification description language”
- [7] ITU-T勧告Q.84 - “Stage 2 description for multiparty supplementary services”
- [8] TTC標準JT-Q957 - “ISDNユーザ・網インタフェース 付加情報転送付加サービス”
- [9] ITU-T勧告Q.953 - “Stage 3 description for call completion supplementary services using DSS1”
- [10] ITU-T勧告Q.955 - “Stage 3 description for community of interest supplementary services using DSS1”

英語	T T C 標準用語
adding a party	加入者の追加
basic call clearing procedure	基本呼切断復旧手順
bearer capability	伝達能力
bridge	ブリッジ
called party number	着番号
called party subaddress	着サブアドレス
cause	理由表示
CONF supplementary service	会議通話付加サービス
conferee	会議参加者
conference	会議通話
conference bridge	会議ブリッジ
conference call add-on service	会議通話アドオンサービス
conference disconnected	会議通話終了
conference established	会議通話確立
conference floating	会議フローティング
conference size	会議通話の規模
controller	主導者
DropCONF	会議離脱
endCONF	会議終了
facility	ファシリティ
facility rejected	ファシリティ拒否
invoke component	インボークコンポーネント
isolate a party	加入者の隔離
isolated	隔離
maximum number	最大数
meet-me conference	ミー・ミー会議通話
multi connection call	多接続呼
normal basic call procedure	正常基本呼手順
notification indicator	通知識別子
operation value	オペレーション値
other party added	新規メンバ追加
other party disconnected	特定メンバ離脱
other party isolated	特定メンバ隔離
other party reattached	特定メンバ復帰
other party split	特定メンバ分離
party	加入者
public network serving the local user	ローカルユーザ収容公衆網
reattach a party	加入者の復帰
reattached	復帰

英語	T T C 標準用語
return error component	リターンエラーコンポーネント
return result component	リターンリザルトコンポーネント
served user	サービス対象ユーザ
split	分離
split indicator	分離表示
SplitCONF	会議分離
telephony teleservices	テレフォニー・テレサービス

第1版 作成協力者(2000年1月25日)

第二部門委員会

委員長	岡田 忠信	日本電信電話(株)
副委員長	竹之内 雅生	KDD(株)
副委員長	見持 博之	(株)日立製作所
委員	山越 豊彦	東京通信ネットワーク(株)
委員	貝山 明	NTT移動通信網(株)
委員	森 文男	(株)エヌ・ティ・ティ・データ
委員	萩原 啓司	住友電気工業(株)
委員	柳田 達哉	ノーテル ネットワークス(株)
委員	稲見 任	富士通(株)
委員	田中 信吾	(財)電気通信端末機器審査協会
委員	青柳 慎一	WG2-1委員長・日本電信電話(株)
委員	加藤 周平	WG2-1副委員長・沖電気工業(株)
委員	飛田 康夫	WG2-1副委員長・三菱電機(株)
委員	小林 敏晴	WG2-2委員長・KDD(株)
委員	保村 英幸	WG2-2副委員長・西日本電信電話(株)
委員	河合 淳夫	WG2-3委員長・(株)日立製作所
委員	杉山 秀紀	WG2-3副委員長・日本アイ・ビー・エム(株)
委員	富久田 孝雄	WG2-3副委員長・日本電気(株)
委員	三浦 章	WG2-4委員長・日本電信電話(株)
委員	松田 雅之	WG2-4副委員長・KDD(株)
委員	竹内 宏則	WG2-4副委員長・松下通信工業(株)
委員	三宅 功	WG2-5委員長・日本電信電話(株)
委員	加藤 聰彦	WG2-5副委員長・KDD(株)
委員	中牧 恭一	WG2-5副委員長・沖電気工業(株)
委員	前田 洋一	WG2-B-ISDN委員長・日本電信電話(株)

(注) WG2-xx : 第二部門委員会 第xx(xx特別)専門委員会

第二部門委員会 第二専門委員会

委員長	小林 敏晴	KDD(株)
副委員長	保村 英幸	西日本電信電話(株)
委員	岩崎 茂	KDD(株)
委員	岸本 淳一	第二電電(株)
委員	古澤 正孝	東京通信ネットワーク(株)
委員	野口 崇	日本テレコム(株)
委員	大羽 巧	日本電信電話(株)
委員	小池田 寛士	大阪メディアポート(株)
委員	羽田野 浩	東日本電信電話(株)
委員	吉田 浩和	安藤電気(株)
委員	長島 芳信	アンリツ(株)
委員	一條 輝城	岩崎通信機(株)
委員	北畠 好章	沖電気工業(株)
委員	浅井 和義	神田通信工業(株)
委員	椿原 一志	キヤノン(株)
委員	中尾 孝夫	シャープ(株)
委員	甲斐 雄介	住友電気工業(株)
委員	墨 豊	(株)大興電機製作所
委員	猿渡 圭介	(株)田村電機製作所
委員	猪澤 隆広	(株)東芝
委員	山田 章治	東洋通信機(株)
委員	船橋 好一	日本アイ・ピー・エム(株)
特別専門委員	上田 達人	SWG1 リーダ・日本電気(株)
委員	雨宮 孝	SWG3 リーダ・日本電気(株)
委員	中島 巳範	日本ユニシス(株)
委員	柳田 達哉	ノーテル ネットワークス(株)
委員	寺田 祐二	(株)日立製作所
委員	山崎 貞二	(株)日立テレコムテクノロジー
委員	小松 潔	富士通(株)
委員	石塚 利之	松下通信工業(株)
委員	高木 健次	松下電器産業(株)
委員	高瀬 譲	松下電送システム(株)
委員	武田 博	三菱電機(株)
委員	大橋 正典	ヤマハ(株)
委員	並川 将典	(株)リコー
委員	今井 尚雄	(株)アルファシステムズ
委員	小林 詠史	(財)電気通信端末機器審査協会
事務局	中村 剛万	TTT第2技術部

J T - Q 9 5 4 . 1 検討グループ (S W G 1)

リーダー*1	上田 達人	日本電気(株)
サブリーダー*1	高木 健次	松下電器産業(株)
特別専門委員	小笠原 寿明	K D D (株)
特別専門委員	北川 隆也	第二電電(株)
委員	古澤 正孝	東京通信ネットワーク(株)
委員	野口 崇	日本テレコム(株)
特別専門委員	早瀬 清史	日本電信電話(株)
特別専門委員	堀 和史	東日本電信電話(株)
特別専門委員	加藤 訓啓	安藤電気(株)
特別専門委員	猿田 誠一	沖電気工業(株)
委員	猪澤 隆広	(株)東芝
特別専門委員	立川 敦	(株)日立製作所
特別専門委員	峠坂 浩行	富士通(株)
特別専門委員	山本 明彦	富士通(株)
特別専門委員	矢島 豊	松下通信工業(株)
委員	武田 博	三菱電機(株)

* 1 : 特別専門委員